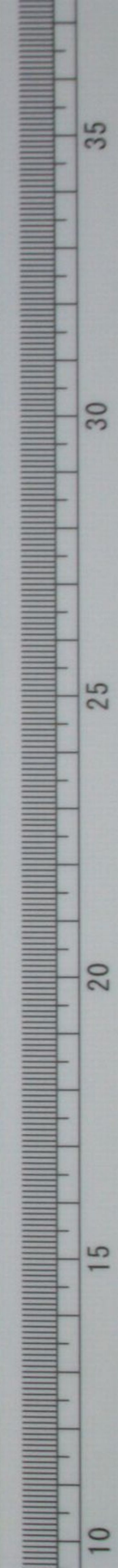


春城雜纂
十九

特別
14
1919
685



呈内閣大臣議州拓使之事書

按查官某等謹ニテ書ヲ内閣諸公ニ上ル伏惟ル諸公賢良有為ノ資ヲ抱キ
 天維聰明ノ君ニ遇ヒ其聖徳ヲ翼賛シ以テ大政ノ復古ヲ致シ萬機維新中
 興業成ル某等之ヲ古今ニ徵シ之ヲ内外ニ求ルニ其功ノ大其業ノ偉未タ曾
 テ之カ比倫アルヲ見サルナリ初メ今上ノ即位ニ給フヤ首トシテ五事ヲ以テ神明
 ニ誓ハサセラシ天地ノ公道ニ基キ萬機公論ニ決スルヲ約セラル是レ固ヨリ聖
 上至仁ニシテ天下ヲ以テ一人ニ奉シ給ハサルノ盛慮ニ出ツルモノナリト虽氏抑モ
 亦諸公翼賛ノ力ニ頼ラサルハナリ其功復又タ大ナリト謂ツルニ某等謹テ
 按スルニ所謂ル萬機ヲ公論ニ決スルノ誓言ハ國家施治ノ基礎ニシテ我帝
 國萬世不易ノ大憲ナリ天下人衆孰シカ今上皇帝ノ至仁至徳ト内閣諸公
 ノ公忠公誠ト感激セサルモノアランヤ是ニ於テ乎一ハ諸候ノ封土ヲ収メ以
 テ郡縣ノ制ヲ定メ一ハ州拓使ヲ置キ以テ北門ノ鎖鑰ヲ固クス蓋皆天下

輿論ニ從テ也頃日某等之ヲ道路ニ聞ク朝廷將サニ約ニ照シテ開拓使ヲ
廢シ本使所屬ノ工場船艦等ノ物件ヲ舉ケテ之ヲ本使ノ官吏某等將
ニ結ハントスル所ノ一商社ニ賤賣シ且ツ之ニ委スルニ北海道物産輸出ノ全權ヲ
以テスト而シテ其賣典スル物件ノ價格ヲ伺ヘハ曰ク三十拾萬圓其價金ヲ
徵納スル期ヲ伺ヘハ曰ク三十拾年且其賣典スル物件ハ無慮三百萬圓ニ降
ラサルモノナリ而シテ事皆テ成規ニ據ラズ益シ内閣ノ特旨ニ出ツルナリト某
等始メ之ヲ聞テ未タ取テ之ヲ信セス竊ニ以為ラク是レ流言耳是レ訛
傳耳今上聖明而シテ翼賛其人ニ之レカラス言ニ斯ル不公不平ノ事ヲ
為シ以テ天下ノ公論ニ背カン乎ト既ニシテ稍其實ヲ審カニスルヲ得
其事ノ絶無ニ非サルヲ知り某等甚ク惑フ焉蓋シ聞ク本使官吏某
等將ニ結ハントスル所ノ商社ハ大坂ノ豪商某等所創メ一会社ト其機
ヲ通シ以テ之ヲ朝廷ニ要請スル也ト其信似某等今コレヲ知ラスト

英氏而モ此說一タセ世ニ傳播シ朝野駭然謗議沸クカ如ク三尺ノ童子
モ猶ホ且フ切齒シテ其不可ヲ議スルニ至ル噫孰レカ今上皇帝ノ至仁
至德内閣諸公ノ公忠公誠ニシテ斯カル不公不平ノ事ヲ為スト謂ハン乎
而シテ朝廷或ハ之ヲ為ス是レ世人ノ益々惑フ所以也然リト虽氏朝廷
豈ニ徒ラニ之ヲ為スモノナランヤ未タ必スシモ由テ起ル所ナクテシハ
アテナルナリ某等ヲ以テ之ヲ觀レハ抑モ說アリ夫レ開拓長官黒田清
隆ハ國家之功臣也開拓使官吏ハ功臣ノ僚屬也朝廷仁愛ノ厚キ一
朝廢使ノ故ヲ以テ遽ニ此輩ヲ棄ルニ忍ヒス所ケ其請ヲ允シ以テ之ヲ
シテ各自其所ヲ得セシメント欲スルノミコレ人君人ニ忍ヒサルノ美德ニ
古人ノ所謂此心以テ王タルヘキ者朝廷有ル為唯タ朝廷能ク此心ヲ推シ
テ大ニ之ヲ用井ハ天下人衆ノ幸福コレヨリ大ナルハ莫シ然ルニ之ヲ忍フニ忍
フヘキ所アリ忍ヒサルニ忍ヒサルヘキ所アリ今朝廷ノ忍ヒサル所ハ其忍ヒ

サルキ所ニ非ラスレテ其忍フ所ハ忍フキ所ニアラス是レソノ大ニ天下ノ
議論ヲ来ス所以也何ヲ以テ之ヲ言フ夫レ三千五百万人ハ国家ノ赤子ナリ
開拓使所屬ノ物件ハ国家赤子ノ膏血ナリ今朝廷約ニ照シテ開拓使ヲ
廢スソノ官吏ヲ罷カル固ヨリ其所也何ノ忍ヒカルトコロカ之レアラン而レニ
朝廷之ニ忍ヒス遂ニ他ノ赤子ノ膏血ヲ擧ケテ之ヲ一官吏ニ私セントス某
等之ヲ聞クモ猶ホ且ツ心ニ忍ヒス朝廷乃ク忍シテ之ヲ行ハントス何ソ
其レ彼ニ仁ニシテ此ニ不仁ナルヤ然ラハ則ケ朝廷一官吏ニ忍ヒカルノ仁適
マ以テ三千五百万人ニ忍フノ不仁ヲ表スルニ足ル而已是レ豈ニ朝廷ノ素
心ナランヤ故ニ曰リ今朝廷ノ忍ヒカル所ハ其忍ヒカルキ所ニアラスレテ
其忍フ所ハ忍フキ所ニアラスト唯タ内閣ノ諸公少シク之ヲ察セヨ
此レ某某ノ朝廷ノ為リ取ラサル一也夫レ北海道ハ沃野千里山ヲ帶
ヒ海ヲ環リ物産豊饒運輸極メテ便ナリ實ニ所謂ル天府ノ地ナリ

アリヨリ開拓使ノ事朝廷固ヨリ之ヲ欲ヒス唯タ其要請ニ因テ已ララ得ス
シテ之ヲ許ス耳若シ之ヲ拒マハ或ハ以テ他ノ不中ヲ招キ禍機ノ發且ヤ
測ラレサラントス西南ノ役以テ鑑スレト嗚呼是レ何ント言フエトソヤ
彼ノ黒田清隆ハ何人ソヤ入テハ則ケ參議ト為リ以テ庶議ヲ助ケ出テハ
則ケ中將ト為リ開拓長官ト為リ以テ國家ヲ護ル其官ヤ尊ク其位ヤ
重シ孰レカ社稷柱石ノ大臣ニシテ是ノ人不良ノ事ヲ為スト謂ハシヤ
小人タラントスル耶宜シク速ニ之ヲ黜ク一ニ君子タラントスル耶安シク此
理アランヤ設ヒ或ハ之レアラシムルモ國家自カラ法アリ朝廷之ヲ正シ
テ可也何ゾ堂々タル朝廷ヲ以テシテ區々一官吏ノ不平ヲ懼ルニヲ為サ
ンヤ要スルニ天下公論ノ歸スル所ニ從ヒ義ニ據テ断スルアラン而已矣
然リ而シテ某某ノ患フル所ハ此ニアラスレテ彼ニアリ今夫レ朝廷天下ノ公
論ニ背キ信ヲ人民ニ失シ威嚴上ニ立タニスレテ法令下ニ行ハレスンハ

在廷、諸公將、何、以、此、中、與、維、新、天、下、ヲ、治、平、セ、ン、ト、ス、ル、乎、批、言、詔、
照、然、載、セ、テ、典、藉、ニ、在、リ、内、閣、諸、公、豈、ニ、處、ニ、之、ヲ、志、シ、ン、ヤ、伏、冀、リ、ハ、諸、
公、平、生、公、忠、公、誠、ノ、精、神、ヲ、此、際、ニ、揮、揮、シ、以、テ、天、子、ノ、至、仁、至、德、ヲ、
翼、贊、シ、連、ニ、其、議、ヲ、止、メ、更、ニ、天、地、ノ、公、道、ニ、基、キ、明、治、八、年、八、月、二、十、七、
日、同、十、三、年、十、月、十、五、日、令、ス、ル、所、ノ、成、規、ニ、照、シ、中、心、不、偏、ノ、處、分、ヲ、
為、シ、以、テ、天、下、ノ、望、ニ、極、一、日、某、等、誤、テ、廷、臣、ノ、末、ニ、列、シ、職、官、有、財、
產、管、理、ノ、方、法、ヲ、監、查、ス、安、シ、ソ、能、リ、之、ヲ、知、テ、言、ハ、カ、ル、ヲ、得、ン、ヤ、且、
シ、某、等、カ、此、書、ヲ、呈、シ、諸、公、ノ、明、裁、ヲ、仰、リ、所、以、ナ、リ、某、等、區、々、情、益、
シ、愛、君、忠、國、ノ、至、誠、ニ、出、ツ、ル、也、諸、公、幸、ニ、天、下、ノ、為、メ、ニ、之、ヲ、採、擇、シ、某、
等、ヲ、シ、テ、安、ス、ル、所、ア、ラ、シ、メ、ヨ、敢、テ、腹、心、ヲ、布、キ、謹、テ、斧、鉞、ヲ、待、リ、某、等、
頓、首、再、拜、白、ス

明治十四年九月十日筆

某等頓首、謹、大、木、元、夫、院、議、長、閣、下、建、言、ス、某、等、黃、口、サ、シ、
未、タ、乳、臭、ヲ、股、ス、叩、リ、天、下、ノ、事、ヲ、議、ス、者、其、情、誠、ニ、免、ス、雖、也、敢、
テ、斧、鉞、ノ、誅、ヲ、懸、ケ、ス、自、ラ、道、ヲ、闡、下、建、言、セ、ト、欲、ス、ハ、某、等、一、片、臆、
國、愛、民、ノ、至、情、寔、ニ、不、能、已、ス、ノ、マ、ト、ナ、リ、請、フ、試、シ、其、一、ヲ、陳、シ、
某、等、熟、シ、按、シ、ニ、政、府、迄、未、ノ、施、政、一、々、其、初、政、ニ、相、及、ス、ニ、テ、觀、ル、抑、
明、治、維、新、ノ、初、ノ、畏、リ、我、國、聖、文、武、ノ、

天皇陛下、有、リ、シ、テ、五、ヶ、条、ノ、誓、言、詔、ヲ、天、下、ニ、示、シ、公、議、堂、論、議、
万、機、ヲ、決、シ、テ、下、ニ、シ、シ、盛、ニ、經、緯、ヲ、行、ヒ、天、地、ノ、公、道、ニ、基、キ、
其、ヲ、振、起、シ、民、福、ヲ、増、進、セ、ン、ト、シ、生、ク、賜、ヒ、次、ニ、漸、次、ニ、立、憲、ノ、政、
ホ、シ、テ、皇、座、ト、共、其、慮、ニ、合、シ、テ、望、マ、リ、賜、ヒ、シ、ヨ、リ、石、炭、有、司、
悉、ク、勉、メ、其、旨、ヲ、奉、獻、シ、須、臾、モ、怠、ル、ナ、リ、石、炭、ノ、施、政、一、ト、シ、テ、
聖、意、ニ、遵、ハ、ン、ト、ナ、リ、誓、言、ス、ル、ハ、ナ、シ、他、下、ニ、王、政、ノ、基、ヲ、奠、シ、テ、維、新、ノ、

1.

治理漸々其緒ニ就キ民権サク勃伸シ改進ノ急ヲ期シ
張ノ口當ニヤ政府ハ権ヲ嚴シ苛左ク抑シ或ハ以テ集會言
論ノ自由ヲ稍制シ或ハ以テ新聞出版ノ自由ヲ拘束シ或ハ教
察ノ法ヲ嚴シ以テ人民ヲ威嚇シ或ハ時ニ勸工勸業ノ後會ヲ
開キ以テ人心ヲ籠絡シ翻然トシテ維新当初ノ精神ヲ變
シ改進ノ方針ヲ轉シテ保守ノ政ニ傾キ自由主義ヲ去リテ干
渉ノ政策ヲ採リ終ニ此ノ事ヲ奪ハシテ漸次ニ立憲ノ
政体ニ御シテ皇位民望ニ背キ強ト寡人專制ノ定アルヲ觀
ハ嗚呼是レ多昧者ナリト云

万乘ノ尊ヲ欺キ下億兆ノ民ヲ欺クモノト云フヤ年

其多 諸ノ次ヲ其ニテ陳シ政府ハ既業ニ其当初ノ精神ヲ變
シ其当初ノ政體ヲ一轉シテ人民高キ其久ノ美ヲ以テテ其時
時公認正大ノ法文ヲ擬シテ純ニ泰西新主義ノ方策ヲ術ニ巧ニ
施政ノ綱ヲ布キ妙ニ治平ノ略ヲ講シテ一トシテ表裏及回復ノ實
組設セテ人ヲナシ者日改費節減ノ方策ヲ定メ大吏負テ隱伏
シテト多ク是ノ急務ノ減員法ノ別法行ハルニテ其理トヤ漸ク復
旧轉用シテ數反ナラズ其心復セテ又官吏登用ノ規
則ヲ設ケテ漸ク人材ヲ登用スルノ意ヲ示シテト多ク其實際
ニ一覽ニシテ官途ニ其職ヲ考スルト民同志試者ト同ニ於其
試験ニ難多實嚴ニ其果現ニ太甚シキモノアルニテトヤ今之
吏ニ大ニテ其弊ヲ之メ何ヤシ政府ハ從テニ嚴固慨也ノ志ヲ
疑ニ猥リニ鼠竇ヲ構造シ鍛鍊羅織化拏者責敢テ法意
ヲ托ケテ之メ出因也ト云フ一再ノト云フ嗚呼是レ政府ノ慮固
及リ嗚呼是レ能依テ手版ニ外ナラズシテ表裏及回復ニ每甚シキ

に條約を以て急に実行せらるるに應ずる處是れ大將に是れ日本帝國
ナカシト云ふに條約各國の附屬地ニシテ之唱呼二千五百年
未嘗テ一たびも非表をナシ行セシムルナキ事也又東大ハ洲
ナキナシテ今ヤ空しく權得狼狽ナキ事也又人種ノ深淵ニ
所リシト云ふに誰ノ憤慨ノ情ヲ記サラシヤナキ日本帝國ノ
運命ハ條約ノ中止ノ一線線ニ於テ存亡ノ保ヲムルナリ以テ是レ危
急存亡ノ秋ニアラシヤ急遽ニテ之取決ニ從事セラルル事也
及ハヤナリ誠ニ決然案ヲ決シテ全國同放ハ其父老ノ憂心其
以外は権ヲ撤去スル効ナリ其昭定特ニ現行條約ニ條約ニ
之ヲ知ラセナリ又傳ハレ所ニ急シク海國視一事ノ如キ獨更ニ強
國ニ課スル願ハ信義ヲ奉國ニ研クニモナリト其等其詳細ヲ
ハナシテ其是レ我レ政府ニ決シテ有レ同敷ノ慮是レ海國
ナカシト云ふに今國外文ノ事之外信義ヲ行ハ失レ其權理
利益ヲ我レ權之政府ノ失策ナシ生テ是レ權ニ課スルナリ
其等ハ已ニ我國內以外文ニ同シ最ニ重大ナシト云フ者ナリ
以テ其ハレ欲スル所ナキ事ナリ其等尚ホ言ハレテ欲スル所
スト其ハレ之ヲ陳ハサレ所以ノ之ノ善シ惟ク其外事項ニ其ハレ政府自
ラ願ヒテ同意スル所ナキ事ナリ信義ハナリ其等諸ノ為ニ二三ノ方
策ヲ設セシ

其一ニ我レ政綱ヲ張リ民力ヲ養フニ在リ以テ綱目何ヤ作新
ナリ
聖詔明勅是ナリ是レ政府ニシテ以テ
聖詔明勅ヲ奉テ其レ終始滿ラズ漸次其旨旨ヲ擴張シ其
方針進行シタラシメ決シテ今日ノ如キ水政ニ至ラサナリ以テ
ア今日ノ如キ衰弊ニ陥ラサナリ以テ水政ヲ矯正ス唯此新勅

政ニ後ニ在リ、其ノ主旨ヲ擴張スルニ在リ、即チ集合新
聞・出版ノ年例ヲ改正シテ言論・集合・出版ノ自由ヲ与ヘ、地方
自治ノ制ヲ立テ、中央集権ノ弊ヲ除キ、国会開設ノ準備ヲ
整ヘ、租税ノ民心ヲ以テ減セシメ、租税ノ類是レナリ、以テ其弊
ヲ救済スルニ由リ、民力ヲ以テ減セシメ、租税ノ類是レナリ、以テ其弊
減シ、不急ノ土木ヲ止メ、租税ノ減シテ、地方自治ノ負擔ヲ
減シ、徴税ノ法未ダ立テ、租税ノ減シ、地方自治ノ負擔ヲ
用ヒ、之等シテ、漸ク其弊ヲ廢止シ、府縣町村自治ノ範圍
ヲ擴張シ、民間事業ノ發達ニ由リ、地方自治ノ負擔ヲ
シテ、中央政府ノ干渉ヲ省キ、地方自治ノ負擔ヲ
特別ノ保護ヲ全ク廢止シ、高價利ノ事業ハ、各其自由ニ
従フニ任セ、租税ノ如ク、人民ノ實力ノ伸ビ、公共ノ利益ヲ
業漸ク興リ、富國強兵ノ道ヲ行フニ由リ、是レノ所以ナリ、
一筆トス

其二、外國民ノ權利ヲ保護シ、正義ヲ守ルニ在リ、夫レ万国公法ニ由リ、万国
協定ノ國權ヲ伸ヘ、信義ヲ守ルニ在リ、夫レ万国公法ニ由リ、万国
大同ノ理想ヲ以テ、租税ノ減シ、地方自治ノ負擔ヲ
アルヲ得、之ヲ以テ、租税ノ減シ、地方自治ノ負擔ヲ
之レノ諸國ニ對シ、以テ、租税ノ減シ、地方自治ノ負擔ヲ
ニ我々、租税ノ減シ、地方自治ノ負擔ヲ
ナリ、租税ノ減シ、地方自治ノ負擔ヲ
坐視スルニ由リ、租税ノ減シ、地方自治ノ負擔ヲ
ニ我々、租税ノ減シ、地方自治ノ負擔ヲ
民衆ノ輿論、實ニ其ノ所以ナリ、江蘇省、有識ノ公議、立以テ、外ニ在リ

カカル
現未先國ノ所ハ所ナリ要論公議ニ在リ政府ハ唯之ニ依リテ以テ
外國權ヲ伸張スル得ル信義ハ天下ノ公認ナリ苟ク之ヲ行ハズ信義
以テ文ハ分ハテシノ事ハ仇讐ヲ以テ之ニ報スル也ヤ然レ未國ノ如キ同國
以テ終始信義ヲ以テ我ヲ遇ス我輩亦之ニ對スルニ信義ヲ以テ報
セサルヘケンヤ況ンヤ方今獨ヤ英ヤ頗ハ野心ヲ包藏シテ甘言以テ
我ニ啗ハシメントスルノ秋ニ當テヤ宜シク先ヨ米田ノ如キ徳和公
平ヲ主義トせん信義ノ邦同ト其舊交ヲ修メ深ノ相結托
シテ他日ノ大患ニ備フル所アルキナリ然ラズニ或ハ他ノ一
ニノ強國ノ為メニ吞噬セラシントス故ニ一ニ以テ輿論公議ヲ
據テ國權ヲ伸張シ一ニ以テ信義ノ國ニ結托スル一是レ亦
一策ナリトス

最後ニ於テ某等ハ丹心以テ當路ノ有司ニ勸告セシメテ
スルモノアリ是レ他ナシ内閣大臣袂ヲ拂テ朝ヲ去リ潔然
冠ヲ掛ケテ在野ノ政事家ニ其位地ヲ讓ラント是レナリ抑
當路ノ大臣有司ニシテ能ク上來陳ル所ノ方策ヲ實行
スルヲ得ヘクシハ此モ猶豫ナリ疾速之ヲ果決斷行スヘシ某
等敢テ未メ全ク今ノ政存ニ信任ヲ措カサルヤラス若シ能
ク其善ヲ言フ所ヲ容レ善後ノ策ヲ講セハ必ラズヤ亦沙エテ
屬スヘキモノアラン雖然若シ能ク自ラ其力ヲ料リ其事ノ
容易ニ能クシ難キヲ覺ラハ速ニ自ラ退クレシテ及
テ遂ニ躊躇其位地ニ恋タレテ他日國會開設ニ及ビ輿
論ノ戰場ニ於テ公議ニ迫ラレ不得止レテ終ニ城下盟
ヲ成スル卑怯拔策ニ出ント其善ヲ言フ所ヲ容レ善後ノ策ヲ講セハ必ラズヤ亦沙エテ
取ラカルナリ宜シク深ク慮リ遠ク鑑ミテ自ラ吾如スル所アル

一之レヲ最後ノ一葉トス

嗚呼、^{果等}北陽節野ニ生長シ文辞、拙ノ事情ニ迂

シ必ラスヤ、言フ所ノ事ノ情ヲ得サルモノアリシ又文辞ノ調ハ

サルカ為ノ愚意ノ貫徹セサルモノアリシ然レモ今ヤ事急ナリ復タ

他ヲ顧ミルニ暇アラハナリ伏シテ請フ閣下幸^{甘本等}、^草

茅ノ危言モ亦惟憂同爰民ノ至誠ヨリ出ルヲ知ラハ言

辞ノ不遜^{果等}ヲ以テ之ヲ棄テヌ只管^{果等}、微衷ヲ憫ミ之ヲ

陛下ニ執美シシ夜ノ賢ニ供シ賜^{果等}ハラントナリ

頓首敬白

公債証書現賣買紹介所設置願

一昨年来公債証書ノ價格漸々下落シ殊ニ昨年未、如キハ非常

ノ下落ニシテ所有者ノ不幸當ナラス就中士族ノ之ヲ資本ニ換シト

欲スルモノ、如キハ其最モ甚キモノトス本年ニ至リ少シク價格ヲ挽

戻トセシト虫死未タ以テ適當價格ト為スヘカラス且ツ其少シク挽

戻セシハ備荒儲蓄金ヲ以テ公債証書ヲ買收セシニ曰ト謂ヒ或ハ豪

高ノ一時巨額ノ公債証書ヲ買收セシニ曰ルト謂ヒ或ハ銀行者、之

ヲ買收セシト謂ヒ其說一ナラスト虫死夫ノ備荒儲蓄金ノ如キ其成規

ニ依レハ一歳中全國一般公債証書ヲ買收スヘキ金額ヲ計ルモ以テ

公債價格ニ變動ヲ生スル程ノ巨額ナラス況ニヤ備荒儲蓄金ノ事タル

創始ニ係リ地方未タ徵收方法ノ議決セサルモノアルニ於テヤ若シ又

豪高ノ買收セシニ曰ルトセンカ蓋ヒ非常ノ下落ニ乘シ他日ノ利得ヲ

計畫スルニ出テ、其買收スルところハ秘藏物ニ非シテ値ヲ待ツモノナレ
ハ豈ニ他日下落ヲ来タスノ芥蒂ヲラサルヲ知ラシヤ又銀行者ノ買收ニ
曰ルト為スモ是亦價格ノ下落ヲ防クヘキ一時ノ窮策ニ外ナラサレハ其
買收セシところハ贅物タルニ過キシテ豪高ノ買收ト其曰ヲ異ニスルモ
其果ヲ同フセサルヲ得ス故ニ本年少シク公債價格ヲ挽戻トセシハ客
冬ノ下落ニ際シ各地へ轉遷セシカ又ハ富有者ノ貯藏セシニ曰由セハ可
ナリト虫氏或ハ前ニ云フ原由ニアリトセハ全ク一時ノ挽回ニシテ漸々適當價
格ニ恢復スルヲ望ムヘカラサルノミナラス或ハ客冬ノ如キ非常ノ下落ヲ致ス
アルモ未タ知ルヘカラサルナリ頃年紙幣ノ下落ヲ憂フルノ際公債証券書
ノ景状如此ナルハ特ニ所有者ノ不幸ニ止ラス内外ノ信用ヲ害シ施
政ニ関スル少カラサレハ公債証券書價格挽回ノ策忽諸スヘカラサルヤ言ヲ
族タス曰テ債々惟ルニ一昨年来年穀豐穰ニシテ加フルニ穀價ノ騰
貴ヲ以テス各地農家ノ收益益ニ例年ニ倍蓰スルノミナラス實ニ非常ノ
餘裕ヲ得タリ然ルニ從來我邦農家ノ慣習タル單ニ其地ノ收成ヲ
以テ命脉トナシ他事ヲ營ムモノ稀ナキヲ以テ其為ス所自家ノ經營
ヲ了スルノ餘ハ空ク之ヲ庫中ニ藏貯シ其流通ヲ過ムルモノ多シ是ヲ
以テ當今各地農家ノ狀況ヲ視ルニ一夫一婦ノ家ト虫氏尚且多少ノ
貨幣ヲ貯藏セサルナシ況ニヤ生産ノ是ヨリ多キモノニ於テヤ今夫各
地農家ノ幸福如此ナルハ我カ政府ノ農民休養ノ恩澤ト比年
豐熟ノ天恵トニ曰ル所ニシテ我カ農産國ノ如キニ於テハ最モ喜
フヘキノ結果ナリト虫氏斯ク幸福ノ農家へ傾向セシヨリ經濟上ニ於
テ之カ影響ヲ生セシモノ少シトセス今其著ルニキモノヲ擧クレハ米穀ノ
如キ東京一府下ニ就テ計ルモ蓋シ毎月逐次輸入スルモノ五万石ニ下
タラス曰テ一石代金十圓ト反算スルハ八月ニ五十万圓余ハ各地農家

へ注入スルモノトス然レハ推シテ全國各都市ヨリ流出スル一歳ノ金額ヲ
計ラハ夫ノ庫中ニ藏貯セラルモノ亦幾百千万金ナルヲ知ラス近來常
ニ各都市ノ金融迫塞ヲ告ルモ亦宜ナラスヤ蓋シ公債証券ノ斯ク價
格ヲ落トセシハ士族ノ賣出シ多キニ因ルヘシト虫氏都會ノ金融迫塞亦
其勢ヲ助長スルモノト做サルヲ得ヌ曰テ謂ヒラク今此各地農家ノ餘
裕ニ際シ夫ノ庫中藏貯ノ贏餘ヲ以テ公債証券買收ヲ慫慂スルニ若カ
スト於是本年一月別紙ノ通り日報ニ知朝野三新聞紙ニ掲テ各地農家
ニ告ルニ公債買收ノ完策タル所以ヲ以テセリ今夫レ此事ニシテ之ニ應
スルアラハ三個ノ大益アラシク疑ヲ容レズ抑モ信用ハ經濟ノ基本ナリ殊
ニ政府財政ノ如キハ自カラ生産スルニ非ス單ニ信用ニ依リテ之ヲ維持スル
ノ性質ナレハ以テ國庫ヲ充實スヘク以テ公債ヲ募收スヘク事如此ニ政
費ノ多キモ患フルニ足ラス安シテ保護安寧ノ職ヲ盡サルヘキナリ之ニ
反シ信用一タヒ地ニ墜ルルハ殘縷亦繁クヲ得ス内外ノ政途困却ヲ
極ムル言ヲ待タス今ヤ各種公債ノ價格然カク下落シタル其原因ハ決
シテ前陳ノ如ク政府ノ信用ニ異動アリテヨリ生シタルニアラスト虫氏下落
ノ實況如此ナルハ執ヒ其信用ニ關係ナキ能ハス公債ノ寃ト云フヘシ
然レハ今農民ヲシテ公債証券ヲ買收セシメ金融開通ノ道ヲ謀ルル
ハ公債ノ價格ヲ挽回シテ内外ノ信用ヲ堅クスヘシ是其一ナリ我邦頻
年貿易ノ權衡ヲ失シ常ニ外人ニ敗ヲ取ルモノ或ハ邦人ノ奢侈ニ耽ルニア
ルヘシト虫氏其一大原因ハ物産ノ興起セスシテ國本ノ彼レニ及ハサル
ニアラン而シテ此物産不真ノ原因ハ職トシテ資本ノ欠乏ニアラン否ナ
資本ノ潜在シテ用ヲ為サルニアラン是レ頃年ノ豐作ニ乘シ金幣
地方ニ飛去リテ農家ノ庫中ニ藏貯セラレ貨幣固有ノ妙機ヲ防
遮シ内地無數ノ起業者ヲシテ此ノ者ルヘキノ海アリ鑄ルヘキノ山

アリ農桑漁塩綿帛金銅ノ利一トシテ備ハラサルナキノ天賦殖
産ノ物質ニ手ヲ下ス丁ヲ得サラシメ我ニ得ヘキノ需用品ヲ海外
ニ仰クニ因ル故ニ今地方ニ飛散シタル通貨ヲシテ再々市場ニ出テ
シムルハ都會ノ金融ヲ優ニシテ殖産貿易ノ進歩ヲ助クヘシ是
其二ナリ興農主義ハ政府ノ執ル所ナリ地租ノ改正減租ノ公令
地方ノ改革一トシテ農民休養ノ方ニ向ハサルナシ恩惠空カラス
加ルニ比年ノ豊稔アリ農民ハ非常ノ利得ヲ收メシト虫氏巨多
ノ金額ヲ使用スルニ慣レサルモノハ動モスレハ之ヲ得ルト同時ニ
失フテ餘ナキニ至ルイアリ近年地方ニ舶来品ノ流入スル如キ
一証トスヘシ然レ此之ヲ浪費スルニ非レハ貯蔵セサルヲ得ス是
レ農夫ノ状態ナリ浪費スレハ身ヲ害シ貯蔵スレハ國ヲ害ス去ト
トテ漫ニ之ヲ使用セハ却テ農家ノ衰頹ヲ来タシ地方ノ委靡ヲ
招カン今此ノ金額ヲ出シテ公債証書ニ換ヘシムルハ當ニ國益ヲナ
ス而已ナラス確實安全ナル公債証書ヲ蔵貯シテ各地農家ノ資
産ヲ鞏固ナラシムルモノナリ是レ其三ナリ今夫レ各地農家ヲシテ公
債証書ヲ買收セシムル其有益如此然カメ其公債証書ヲ買收スル
ヤ何レノ地タルヲ擇ハスト虫氏之ヲ要スルニ東京大坂ノ如キ公債証書
ノ最モ多ク賣買ノ最モ盛ニナル地ニ非レハ徒勞多クシテ買收意ノ如
クナラス然ルニ兩所株式取引所ニ於テ限月賣買ノ盛ニナルヲ現賣
買ハ絶テ之レナク又市中現賣買取扱ヲ為スモノ少カラスト虫氏官
許ノ場所ニアラスシテ他ノ依信ノ廣カラサルニ因ルカ若シ其所ニ就テ
謀ルモ賣ラント欲スレハ低價ヲ唱ヒ買ント欲スレハ高價ヲ唱フルノミナ
ラス稍々多額ナルモノニ至テハ容易ニ取引ヲ為スヲ得ス故ニ之ヲ買
ハント欲スレハ先ツ株式取引所ニ至リ限月賣買ヲ約シ而シテ其期

ノ至ルヲ待タサルヘカラス是レ其現取引ヲ為サント欲スルモノ、決シテ望
ム所ニアラス且其場所ハ從來投機者流ノ淵叢ニシテ特ニ相場昂
低ヲトスルノ固ヨリ現取引ヲ意トセサレハ其期ニ至ルモ實物ナク其約
ヲ責メント欲スルモ一個ノ仲買人ナルノ結局當初ノ証據金ヲ目當ニ解
ケ合ヲ為スノ外亦奈何ラスヘキナレ今夫廣ク公債買収ヲ恣適シ而シ
テ其實況如此ナルハ各地ヨリ上京登坂スルモノ其買収ニ困ムノナラス
必ス其場所ニ依ラサルヘカラサルハ或ハ投機ノ弊ヲ受クルモノアラシ
ク恐ル故ニ恣適者ニ於テ之カ便路ヲ開カサルヘカラサル義務アリ曰
テ東京大坂兩所ニ於テ公債証券現賣買紹介所ヲ設ケ賣買人
ノ需ニ應シ別紙手續ニ依リ現賣買ニ限リ其紹介ヲ為シ賣買ノ
便ニ供シ度依之今般先ツ東京何正何町何番地ニ於テ之ヲ設ケ左ノ
名ニ於テ悉皆之ヲ擔任可仕候間右設置ノ儀至急御許可相成度
仍テ別紙紹介手續並新聞紙相添紹介所擔任者連印此段奉願也

紹介所設出願人

紹介所擔任者

東京府知事殿宛

各地農家諸君ニ告ク

明治十三年十二月下院ノ稿
一月十六日朝野十七日報知十九日日報

農家諸君諸君ハ今誠ニ最大無二ノ幸福ヲ享クルノ人ト云フ可シ汗
禾下ニ滴シテ辛苦ヲ嘗メ勞働ヲ盡シテ得タル粒々ハ去テ士人ノ
收ムル所トナリ仍リテ工商ノ末業者ヲ飼フノ資ニ供シ幾篇ノ憫
農ハ曾テ諸君ヲ救済スルノ效ナク空ク彼蒼ヲ仰テ號泣ナシタル
諸君ノ哀情ハ豈ニ旻天ニ達セザランヤ時運循環明治ノ昭代トナリ
我カ

獻聖天皇陛下ハ首メヨリ農家休養ニ

御心ヲ勞シ玉ヒ癸酉

ノ年八月勅シテ地租改正ヲ起シ勞逸厚薄ノ偏傾ナカラシメントノ
聖意ヲ示シ玉ヒ同時ニ租額地價百分ノ三ト定メ玉フ此租額タル
之ヲ舊時ノ四公六民ノ制ニ比スル其輕重果メ如何ゾヤ彼改正如
キ地方所ヲ換テハ或ハ適當ヲ得ルニ困ムノ場合モアリシナランモ一般ニ
聖恩ニ浴スルノ慶ハ疑フ可ラサルナリ丁丑一月ニ至リ又タ

聖詔ヲ以テ百三ノ租額ヲ減シテ二箇半トナシ隨テ民費ノ額モ遞減セ
ラル諸君ノ慶於是乎益大ナルニ一昨年来地方經濟ノ改革ト共ニ諸
君ノ負擔ハ著ルシク減シテ營業雜種稅戶數割ノ三項轉荷セシメラル
他三民ノ驚々スル所ハ即チ諸君ノ福祉ノ基トナル是レ偏ニ我が政
府ノ對乎トメ興農主義ヲ執ラルニ據ラズンバアラス加フルニ昨年
ノ米作ハ天保度以來ノ豐作ナルハ人皆信スル所ニシテ本年ノ米
麥モ齊シク稔アリ天惠モ亦大ナリト云フ可シ諸君ハ此豐作ニ際シ租
稅ノ減少ヲ以テス米穀ノ權ハ掌中ニ運轉スルヲ得ベシ昨冬來穀價
ハ職トシテ此原因ニ基クナラン

諸君ハ既ニ米穀ノ全權ヲ握ルカ故ニ國中貨財ノ分配ハ一轉シテ都
鄙地ヲ易フルニ至リ都會ノ金幣ハ去テ他方ニ歸シ諸君ノ囊裏ニ入ル
於是乎數百年来諸君ノ艱苦ニ耐忍セシ報トシテ今日諸君ノ餘裕
ヲ求セシ所以實ニ喜アベシト虽凡諸君ニシテ此餘裕ヲ以テ奢侈ニ浪費
セバ却テ或ハ前日ニ勝ルノ不幸ヲ來サン凡ソ人ハ遠キ慮ナケレハ近キ憂
アリ試ニ見ヨ米價ノ騰貴ハ帝ニ前ノ原因ノミニ止ラザルナリ政府理財
ノ變更其他ノ理由ハ之レガ昇昂ヲ支フ可ク況ンヤ天与ノ幸福ハ望ム
可クシテ期ス可ラズ加フルニ目下財政困難ノ際政府ハ敢テ重斂ヲ欲
セサルモ勢ヒ或ハ増加ヲ辞ス可ラザルナシトス可ラス他日ノ今ニ反スル

カ如キアル諸君ハ其備フル所ナクシテ可ナランヤ詩ニ云ク天ノ未タ陰雨セサルニ迨ヒ彼ノ桑土ヲ徹テ牖戸ヲ綢繆スト諸君ノ綢繆ヲ為スモ蓋シ今日ニ於テセサル可ラス知ラス諸君ハ如何シテ之ヲ為スカ

熟ラ從來農家ノ慣習ヲ見ルニ特ニ其地ノ收成ヲ命脉トナシ他事ヲ營ムモノ稀ナキヲ以テ其謀一自家ノ仰事俯養ヲ辨ズルノ餘ハ之ヲ庫中ニ藏貯シ空ク流通ヲ遏ムルモノ多シ之レ其故ナキニ非ズ抑モ人ノ慣ハサル所ニ向フハ望ム可ラザル一ナリ諸君ニシテ其餘マル所ヲ貸付センカ利算ノ多寡ニ抱ハラズ時或ハ本金ヲ失フノ憂アリ之ヲ殖産ニ用ヒントスルモ益アルモノ亦損ナキヲ保ス可ラズ田地ヲ買フハ今日別シテ諸君ノ願フ所ナレハ是亦肥瘠遠近ノ未タ悉ク意ニ適セサルアリ斯克使用ス可キノ方ナキヨリタトヒ自他ニ益ナキモ寧ロ之ヲ藏貯スルノ

遠算ナキニ若カザルモノアリ無理ナラス一ナリ去レハ貸財ハ之ヲ貯藏スルヨリ害ナルハナシ請フ之ヲ述ベシ

貸財ハ之ヲ用ヒテ資本トスルニアリ而ルニ貯藏ノ貸財ハ資本ノ用ヲ為サス世ニ金錢ヲ浪費シテ放蕩無頼ヲ働クモノアリ其罪固ヨリ大ナリト虽此之ヲ經濟上ヨリ見ルハ貯藏ノ害ニ比シテ等差ナキナリ何トナレバ彼ハ之ヲ使ヒ此ハ之ヲ用ヒスト虽此何レモ國ノ富實ヲ進捗セサルニ於テハ一ナレバナリ今ヤ各國對峙ノ時ニ當リ我國產ヲ振起シテ彼レニ超駕セサル可ラザルニ惜哉我日本ニハ資本未タ些少ナリ戰場有テ兵士ナキガ如シ而カモ其些少ノ資本ヲ猶又貯藏シテ使用スルヲ為サズシハ内國ノ商業ヲ衰頹セシメ彼ト競争スル能ハザルナリ我邦頻年高業上失敗ヲ取ルモノ全ク之ニ因スルモノナリ去レハ國ノ富實ヲ謀ラシニハ金錢ノ融通シテ物産ヲ興起スルヨリ外ナケレバ金錢ヲ貯藏シテ流通ヲ壅塞スルハ國歩ニ大害アルナリ今ヤ民權國權ノ論說喧クシ

テ其趣意ハ國ノ富強ヲ謀ルニ外ナラザル可シト虽氏徒ニ之ヲ主張ス
ル而已ニテ其基礎タル貨財ノ流通ニ着目セサルハ最モ粗漏ノ見ト云
フ可シ而シテ夫ノ鐵道鑛山墾開疏鑿種牧畜製作貿易等其奮發從
事スベキ枚擧ニ遑アラズト虽氏即今唯タ華族豪高等ノ率先盡カス
スルアルノミ又タ未タ之ヲ諸君ニ望ム可ラサルナリ西洋各國ニアリテハ合
資銀行ナルモノアリ高業ニ慣レサル者ノ金錢ヲ集合シテ利用スルノ
方法ニテ實ニ便ナルモノナレ氏我邦未タ此等ノ設ナケレバ不得止從來
ノ慣習ニ因リ專ラ貯藏ヲ務ムルヨリ外ナシト虽氏今日諸君ノ為ニ謀ル
ニ廣ク國家ノ公益ハ暫ク措キ自家ノ利損ノミヲ計ルニ空ク貯藏シテ
曾テ幸福ヲ享クルノ用ニ供セザレバ之ヲ失フタルト何ソ撰ハン然則最モ
確實安全ヲ極メテ而カモ利得アルノ方法ハ諸君ノ欲スル所ナラシ
ヲ得ルハ公債証書ヲ買收スルニ若クハナカルベシ

夫レ公債証書ノ發行ハ或ハ國難ノ為ニシ或ハ財政ノ為ニシ或ハ起業ノ
為ニシ其由ル所一ナラズト虽氏之ヲ要スルニ闔國ノ安危盛衰ニ係リ止
ム可カラザルニ生シタル國債ナレバ彼海外革命國ト虽氏前政府ノ公債
ハ必ス後政府ノ負擔スル所ト為ス故ニ苟モ其國其民ノ存在スル限リハ
決シテ動カス可ラザルモノトス況ヤ萬世一系ノ吾カ

帝國政府ノ公債ニ於ケル其確乎不拔ナルハ言ヲ竦タズ或盜ノ難ニ
罹リ或ハ紛失等ノ事ニ逢フ氏一タビ之ヲ官ニ告レバ曾テ損害ヲ受ル
ナシ官ノ之ヲ保護スルモ亦至レリト云フ可シ是レ公債証書ノ性質タリ而
シテ之ヲ所有スルヤ唯其利金下付ノ期ニ當テ之ヲ受領スルノ外更ニ勞
費ヲ要スルナシ金錢ヲ貯藏スルモ常ニ注意ヲ絶ツナクシテ或ハ火
盜ノ難ニ罹リ積年ノ辛苦モ霧散スルノ不幸アリ地ヲ有スルカ如キ年
中手數ヲ要シテ而カモ水旱災等ニテ之ヲ傷フナリ公債ノ安全ニシテ

便利ナルヲ知ル可シ今ヤ轉シテ其ノ利益アル所以ヲ陳セン
 曩ニ各種公債証券價格ノ公達アリシニ拘ハラズ近來非常ノ低落ニ至
 レリ今東京株式取引所本月一日ヨリ十五日ニ至ル上半月間限月賣
 買金祿七分附公債証券平均直段ヲ第一表トシ同日間市中現賣
 買各種公債証券平均直段ノ額面ノ差及ヒ平均直段ニ對スル利割
 等ヲ第二表トシテ掲載スレハ即チ左ノ如シ

第一表 株式所限月平均

十二月限	一月限	二月限
六十七圓六五三余	六十一圓二六九余	六十一圓一四六余

第二表 市仲現賣買平均

年利金	額面百圓一均直段	額面ト平均直段ノ差	平均直段ニ對スル年利割
六分利金祿	六十四四六余	四十七四二四	一割一三七余
七分利金祿	六十一四七八余	三十八四二二	一割一三三余
八年發行秩祿	八十五四四六余	十四四五四	九分三六一余
七年發行秩祿	八十四四九六余	十五四〇三九	九分四一六余
八年發行秩祿	八十四四九六余	十五四〇三九	九分四一六余
新公債	五十九四一九余	四十四八〇八	一割一三六余
	五十二四二三余	四十七四七七	七分六五八余

今日ニアリテ公債ヲ買收シテ得ル所ノ利益如此今ヤ農家例年收
 益ヲ計算スルニ改租ノ算率ノ如ク僅ニ四分計ニ止ラサルモ高六七分ニ
 ハ過ギザルベシ(農家昨今年收益ノ如キハ之ヲ例外トス)然レハ公債
 ハ地所ヨリモ利益アリト云フ可シ去レ氏今諸君ニ向テ他所ヲ抛テ
 公債ヲ求メヨト云フニ非ズ餘裕ヲ以テ之ヲ買收セン一ヲ勸ムル也近
 年來士族ノ賣出多キト都會ノ金融迫塞等ニ因リ公債証券ノ景
 状如此ナルヲ以テ所有者ノ危疑ヲ抱ク少カラスト虽氏苟モ所有ノ權
 ヲ持スル限リハタトヒ價格ノ十一ニ下ルモ利算ニ影響ヲ生スル一ナク而
 シテ當籤ニ至レハ額面金高ヲ完領スルヲ得ル故ニ之ヲ約言スレハ公
 債証券ハ時變ニ關セス災害ニ係ラズ所有中年ニ定ノ利金ヲ領
 收シ當籤若クハ公債末期ニ至リ額面金高ヲ受領スベキモノトス然
 則今前表現賣買平均直段ニ仍リ七分利金祿公債額面壹萬圓

ヲ買收スルハ其代金六千七百七十八圓ヲ扣除シ剩ル三千八百二十二圓
ハ即チ其買收代金ニ對シ年々一割以上ノ利金ヲ受領スルノ外更ニ得ル所
ノ益金ナリ是其安全ニシテ且益アリト云フ所以ナリ

前條價格ノ十一ニ下タル云々ノ言ハ是レ持ニ價格ノ昂低ニ拘ハラズ一定ノ
利金ヲ得ルヲ述ルノミ固ヨリ其言ノ如キ低下ハアル可ラザル可ラザル理
ナリ大凡物價ノ昂低ハ之ヲ来スニ様ノ原因アリ因外ヨリ来ルアリ内ヨ
リ生ズルアリ公債ニ種類アリ其種類ニ從ヒ性質ヨリ價格ノ差ヲ生
ズルコトアリ(記名無記名ノ類)年限ヨリ生ズルアリ(秩祿金祿ノ類)或ハ
公債一般ノ増減ヨリ價格ニ變動ヲ生ズルモノアリ此レ其内ヨリ起ル
モノナリ其他賣出人ノ多募通貨ノ高低金融ノ開塞等ヨリスルモノ皆外
ヨリ来タルモノナリ今日公債ノ變動ハ内外何レノ原因ヨリスルカト探
討スルニ斷シテ外ヨリ来レリト云ハサルヲ得ズ請フ之ヲ金祿七分ノ公
債ニ取リテ驗センニ賣買ヲ許ルサレシ以來昨年十月迄ハ價格ハ拾二圓
前後ニシテ曾テ八十圓ヨリ下タリシコトナカリシニ爾後一周年ニテ下リテ六
十圓潛リト成リタリ其間公債ノ性質年限ニ交換アリシカ將タ政府
ノ増發アリシカ一モ之レナクシテ而カモ此變動ハ前叙ノ外来三原因
賣出ノ多キ通貨ノ下落金融ノ壅塞ト相伴フテ嘗テ違フコトナカリシニ
ハ非スマヤ之レ欸然タル事實ナリ然レハ七分利ノ金祿公債ノ價格ハ蓋シ
八十圓以上ヲ以テ適當トナスベキナリ(性質年限等ヨリ生セシモノ)外
ヨリ来タルノ原因ヲ除去シ且政府ノ増發ナクシハ之ヲ適當價格ニ恢復
スル難カラザルナリ政府ハ容易ク國債ヲ増發セサル可シ通貨ノ制ハ亦
漸ク改マラントス殘ル所ハ賣出ノ高ト金融ノ度如何ニアリ而シテ此ニ
者ハ諸君ノ掌中ニ全權ヲ握ル所ナリ諸君ハ公債ヲ買收スルモ士族
ノ如ク爭フテ賣出ヲナサルナリ諸君ノ買收ト共ニ金融ハ開通スルナ

リ他ニ何ノ原因アリテ公債ヲ下落セシメニヤ然レバ諸君ノ為メニ謀ルニ敢テ損失ノ點ヲ見出ス能ハサルナリ

公債証書ノ確實安全ニシテ而カモ有利有弊ナル夫レ如此抑モ諸君ハ今日聖恩ト天恵トニ浴スル者ナリ安樂ニ居テ前日ノ艱苦ヲ忘レズ後来ノ不虞カラル、ナラン而シテ其餘財ヲ處置スルニ苦シミ退守ノ計ニ出テテ專ラ貯藏ヲ務メラレンカ經濟ニ於テ貯藏ノ害ホト恐ル可キハ進テハ損失ヲ来タス、患アリ退テハ家國ノ利益ヲ傷フ、思アリ進退難谷ノ地位ニ在ラル、ナラン此ノ地位ヲ脱スルハ公債証書ヲ買收スルニアルナリ公債ノ確實ニシテ便益アルハ諸君ノ知ラル、所ナラン此公債ノ適當價格ニ恢復スルノ難カラサル是又諸君ノ了セラル、ト信ス然ルニ各家ノ意ヲ此ニ留メサルモノハ何ソヤ大凡自己ノ便益タルヘキコトハ他ノ僥倖ヲ待ツモノ

ナラスト雖氏彼ノ公債証書タル我邦ニ在テハ曾テナクシテ始テ有ルモノナレハ其性質利益ヲ審ニセサルニ墜ル、今ヤ幸ニ之ヲ了悉スルヤハ諸君ノ進テ取ル所ナルハ勿論ナル可シト雖氏諸君ハ生産ニ盡カシテ商業ニ慣ハサル人々ナレハ僥倖者ニ於テハ之カ便路ヲ開カサル可ラサルノ義務アリ蓋シ公債証書買收ハ何レノ地ヲ擇ハスト雖氏東京大坂ノ如キ公債証書ノ最モ多ク賣買ノ最モ盛ナル地ニ非レハ徒勞多クシテ買收意ノ如クナラズ價モ亦必ス差異ナキ能ハズ故ニ之ヲ買收セント欲スル所ハ必ス兩所ニ就カサルヲ得サルモノアリ(兩所ニ就テ買收セシニハ人負ノ多少ニ拘ハラズ同意者協合シ委員ヲ撰テ之ニ從事セシムル)最モ便方タルベシ然ルニ公債証書賣買ノ如キハ既ニ兩所ニ於テ株式取引所ノアルアレ氏該所ニテハ限月賣買ノ盛ナルヨリ現賣買ハ絶テ之レナク又市中現賣買取扱ヲ為スモノ少カラサルモ未タ充分賣買ノ便宜ヲ与フルモノアルヲ見ズ左レバ公債買收ノ為メ各地ヨリ上京登坂スルモノ先ツ株式取引所就

キ限月約定ヲ為シ而シテ其期ヲ待タンカ之レ現取引ヲ為サント欲スル
モノ、決シテ望ム所ニアラス且該場ニ臨ミ或ハ投機ノ弊ヲ生ズルモノアラ
シト懲通者ニ於テ深ク恐ル、所トス依テ東京大坂ノ兩所ニ於テ公
債証書現賣買紹介所ナルモノヲ設ケ而シテ現賣買ニ限リ其紹介ヲ
為シ且証書名前換及管轄換ノ手續等スベテ懇切ニ案内シ以テ其
便ヲ開カント欲スト虽此於今諸君ノ公債ヲ買收スルヤ蓋シ一步早ケレハ
一步早ケレバ一步ノ益アレハ夫等ノ順序ヲ運ハンガ為メ空ク日子ニ經過
スルハ懲通者ノ本意ナラズ依テ先ヅ之ヲ諸君ニ告ケ而后紹介所擔
任者ヲ求メ官許ヲ得テ之ヲ設置ノ上其位置并紹介手續等更ニ報
告スヘキナリ然ト虽此事大凡機會アレハ紹介所設置前速ニ着手ス
ルノ諸君ニシテ若シ買收方ニ困ムアラバ東京ハ懲通者ニ於テ之ガ
周旋ヲ為シ聊カ其義務ヲ補フ可キナリ嗚呼諸君今日ハ又得カタ
キノ好機會ト云フ可シ此時ニ際シ怡モ有為ノ資カヲ抱キ而シテ之レ
カ謀ヲ為サス徒ニ米價ノ騰貴ヲ恃ミ般樂怠傲暗ニ奢侈ノ弊ヲ生シ
所謂一日ノ安ヲ偷テ百年ノ憂ヲ遺スアリテ可ナランヤ冀クハ各自親
ヨリ疎ニ及ホレ大ヨリ小ニ謀リ資産ノ大小ニ拘ハラズ餘裕ノ多寡ヲ論ゼス
互ニ全心協力シテ共ニ福祉ヲ享ラレシヲ是レ今聊カ私資ヲ捐テ
廣布ノ勞ヲ取リ敢テ各家ニ向テ鄙見ヲ述ル所以ナリ請フ熟慮
精思シテ揀擇アレ

明治十三年十二月下院

在東京

熊倉美雅

印播沼開墾疏鑿並船路開設願

御縣下印播沼開墾疏鑿並船路開設願
了り就中天保度、如キ疏鑿工事既ニ半ハ過キ候得共其
業擔任、閑老水野越前候ノ免職ニ回リ其事乍ナ止息ノ實
ニ遺憾ノ至ナリ然ルニ昨年御本縣ニ於テ再舉、後御上申
未旧疏鑿筋ハ船路御開設可相成趣傳承仕然ル中ハ先以
運輸ノ便ニ生ル至大ノ公益頓ニ興リ且又既ニ船路開設ニ至
候ハ、尋テ印播開墾疏通、盛業可相ケルニキ機運モ亦果
シテ可至ト欣然ニ不堪候所豈因ニヤ尔後各地暴動打續夫
疾ク御鎮靜ニ至ルト虽氏前後不容易御國費ニ付テハ右船

路御開設ノ如キモ自然御延引可相成哉ト誠ニ慨歎ノ至ニ御
座候抑印禱沼ノ後ハ水面凡五千町歩余ノ大沼ニシテ之ヲ開墾
疏通スルハ七分ノ成果ヲ得ルモ凡三千五百町歩余ハ無用ノ棄
地ヲ變シテ耕地ト為シ且安食ヨリ利根ノ水ヲ引キ沼ヲ經テ
拾見川へ疏通シ同川尻ヨリ行徳迄海岸水路ヲ開キ以テ
船路ト為スルハ從前鉦子北浦水戸那珂港ヨリ輸送スル陸
羽磐常其他ノ産物運船從前関宿ヲ經テ江戸川ヲ下リ東
京ニ到ル凡三拾里余ノ逆流長途ヲ避ケ安食ヨリ印禱ヲ經
テ拾見川ヲ過キ直ニ東京ニ達スル二拾里以内ノ順流ニ隨
テ早著スルヲ得其他船路沼傍村々産物運輸便ハ勿論下

然東地方牧羊場及陸軍陣營便ノ利不有利且運送船如唯ニ
輸入ハニナラス其輸出亦ニ準ハル後ニ其通船運輸便
ニ生ル宏益實ニ量ルハ一ウハ後ニ之カリ曰テ私共印禱開墾
疏通ノ後深ク企望仕幸同中多年工業ニ従事シ實地熟
練ノ者モ有之ニ付右開墾疏通ノ方法且ニ推敲論究仕リ
成功ノ見込相立置候ニ付御本縣ニ於テ急速御着手不相
成候ニ候ハ私共一自普請被仰付度仍テ其工事見込
概畧左ニ申上候

開墾工事見込概畧

一 沼口平戸村地先ヨリ拾見川海迄四里余ノ旧開墾地筋ヲ

川幅拾五間ニ開鑿疏浚シ拾見川尻ヨリ行徑江戸川
尻マテ四里余ノ間海岸幅拾間ノ船路ヲ開鑿スヘシ
但平戸村ヨリ拾見川尻マテ上流ノ疏注ヲ主トスルニ利
根川出水ノ節平戸村ヨリ下流決堤等ノ患害ナカラシ
為ノ川幅ヲ廣クシ堤防ヲ嚴ニシ拾見川尻ヨリ行徳迄
ハ上流ヲ注疏スルニ非ズ地水ヲテ專ラ通航ニ充ルヲ以
テ川幅ヲ狭クシ上流然レモ通航ノ便ニ回リ物産殖シ他日運漚
輻湊シ川幅ノ狹隘鳴ルニ至ラハ更ニ開濶スルモ亦容
易ナルヘシ

一平戸村ヨリ拾見川村ノ間横戸柏井西村地内凡貳拾町

間高臺左右ニ狹峙シ及ヒ花島村地内字観音下ト唱
ル場所一圓泥地ニテ旧政府着手ノ際工事ニ困難セシ
由取候得共高臺ハ唯開鑿ニ人夫ヲ費スノニ又泥地ノ
場所ハ水仕舞シカラ梓ノ仕法ヲ用フハ泥地厚薄ニ不
拘鑿渠築堤共至難ノ工事ニ非ラス既ニ先年大坂治
河局ニ於テ安治川瀬替目論見ノ節揚州西成郡島
屋新田地内一圓ノ泥地ニテ其深壹丈八尺ノ場所ヘ右ノ
仕法ヲシテ川幅六拾間深九尺ノ開鑿致シテ之アリ尤其
工事半ハニ達シ目論見相変シ示後シカラ梓等引除引キ旧
地ニ復シ当令形跡ナシト案氏當時三月ヨリ九月迄施工致

シ實際其難易ヲ經歴セシ候

一拾見川海ハ遠淺ナク、鑿渠ノ水勢注下ノ度ヲ計リ海中へ

直鑿シ利根ノ分流及沼水ヲ充分疏通セシムヘシ

一安食ヨリ沼迄ノ水路ハ利根滿潮ノ節平戸村ヨリ下流水

害ナカラニカノ稍通航ニ差支ナキヲ度トラスラ要ス故ニ

沼開鑿直安食分水口ト沼口トハ川幅七間^{ニ過キテハ}廣カラス

メ不

但縣治^{地形}大體ヨリ論スレハ鑿ノ大主意ハ利根ノ分離ニ

ルカ如シト居民抑利根川ハ遠ク源ヲ上野ニ發シ許多ノ川流ヲ

合セテ數拾里鉞子港ニ入ル然レニ関宿ヨリ鉞子ヲ距ル三

拾里間高低僅少ナラシテ同川洪水ノ節モ水勢遲緩

ニシテ下速ナラス安食ニ至リテ先ツ沼中^中逆流^又然レニ同

沼固ヨリ疏通ノ水路ヲオシテ沼中ニ充滿シ漸クシテ

其漲水全ク注下セサルハ利根ノ水量モ亦減スルヲ以テ

是現今利根川^中實況^ニ然レ^ト為^ルニ却テ若干日

ノ水害ヲ緩^マツルモノナリ故ニ寧^ク利根ノ漲水ヲシテ

竅流セシムル沼ナク其水力ヲ強クシテ速ニ注下セシムル若

カサルカ如シ^候又水路^ノ開鑿^運輸便^ヲ得^ルハ其宏益莫

太ナリト云氏其宏益タル專ラ政府ト人民トニ歸シ其業

成切スルモノニ於テハ独リ印藩ノ開拓ト通航稅トノ外ハ

亦工費ヲ償フニ物ナシト然ルニ其償却ニ当ルヤ開拓ヲ
七分トシ船税ヲ三分トス故ニ人民ノ自善請ヲ為サニハ必ス
印^イ補^ホ開拓ヲ先ニシ利根ノ分離ヲ後ニセサルヘカラス何ニ
トセハ分離ヲ先ニタルハ速ニ開拓ノ功ヲ遂クルト能ハサレハ
ナリ故ニ今此開拓ヲ為サニ欲スレハ利根ノ分流ハ僅ニ通船ニ
充ルテ以テ是リトシ專ラ沼水ノ疏注ヲ謀カラサルヘカラス
然^シニ開拓^ノ成リ沼中ノ水路ニ堤防^ヲ築クノ日ニ至テ
ハ既ニ満潮トヘキ沼池ナク漲水直ニ内海ニ注疏スルヲ
以テ害ニ利根^ヲ水害ノ時日ヲ緩^クサルノミナラス其害ヲ減
却スルト必然タルヘシ也則開拓ヲ先ニスルト分離ヲ先ニスルト

ハ唯其順序先後アルニ其成功ノ日ニ於テハ兩ナカラザ
其切ヲ奏ス^ルハ^ハ疑^ハナシ

右ハ印補開拓疏通ノ工事見込ノ概畧ニ候所今ヤ自善請ヲ以テ
此大業ヲ舉ニト欲スルニ最モ至難トスルハ^ハ兩言ノ如ク曩時旧政
府於テ其工事ヲ果サレハ其節擔任セシ閣老ノ退職ニ因ルト云
凡世^ニ上ヨリ之ヲ見ルハ旧政府ノ威權ヲ以テ之ヲ詭藩ニ課ス
モ其切^ヲ奏^スル^ルハ^ハ必^スト果^スル^ルヘ^カラサルモ^ハアルノ思ヲ為サシム
ラント其開墾ヲ鳴ルモ率子之ヲ疑難セサルナシ况ヤ其工費
凡七八拾萬圓ノ巨額ヲ要スルニ於テヤ故ニ自善請ヲ以テ其
事ヲ舉^スル^ルハ^ハ必^スト旧大藩華族ニシテ富有ヲ俣テ卓識ヲ

童子子孫永世ノ謀ヲカス者ニ非ルヨリ其費用ヲホスルニ由
ナルハシ目ヲ私共自善請フニ其全功ヲ遂ルノ順旨ハ先ツ旧疏
鑿筋ニ依リ平河漕運漕ヲ設ケテ通航路ヲ開設スラシテ
第ニ舉トシ其運輸ノ便ニ目リ開鑿疏通ノ工事ヲ起テ
カニ欲ス作^{其改}ト^ハ一旦通航ノ便ヲ開クハ地勢ノ如何モ諸人ノ
認ル所トナリ且暑時ノ疑難モ亦随テ解クニ至ルヘク且疏鑿ノ功
ヲ起テ右通航ノ便ニ仍リ木材其他需要物品ヲ運漕シ且鑿
浚テ土砂ノ如キモ一以テ沼ニ輸シテ開拓ヲ助ケ一ハ以テ海ニ輸シ
テ新地ヲ作ルヘク且平河ノ設ケル上漕下漕各漕渠底ヲ平
壘スルノ法^{全キ}トシテ多少ノ開鑿疏通後ヲ要スルヲ以テ再舉ノ工

補フモノ少カラヤトス^{スト}且夫大業ヲ起スヤ固ヨリ一朝一夕ノ能クス
ヘキニ非ス其間或ハ支障ヲ生シ中道ニテ廢墮セサルモ亦保シ
難シ樂ニ先^右通航路^{開鑿}ノ開^ハ其^其切速ニシテ通航運輸ニ於ケ
ル夫ノ開鑿疏通ノ成果甚異トナカルヘシ俟亦平河ノ言タル上
漕下漕轉漕ヲ設ケ開扉ヲ開閉シ上下轉漕セシムルハ其
不便ヲ疑フ者アルヘシト云^其上下^其轉漕タル多時ヲ要セ^其且
利根^長逆流ヲ避ケ上下平坦ノ川路ニ就キ船路ニ大ニ短縮スル
ヲ以テ度通航スルハ其至便ヲ知ルヤ^其容^トス且其法^其
如キハ三圍田ノ如キ甚ク多ク必ス無ニハアルヘカラカノ要事ト
稱スル由且我國ニ於テモ既ニ揚州手島郡阿井川ノ如キ殷流

谷川少しは該方注テ現ニ通航ノ便ヲ取ル者アリ仍テ其方法ノ概畧左ニ陳述仕候

平河設立法ノ概畧

一平戸村沼口ト拾見川尻ノ中間横戸柏井西村地高場所ニ於テ池ヲ築キ溪流ヲ注溜シ其最モ高ク池水ノ入ラ
其所ハ開鑿シテ上堰ヲ築作リ其前後ニ継堰ヲ作リ
夫ヨリ一方ノ下堰ヲ作リ一方ハ旧疏鑿ヲ疏浚シテ沼口平坦
ナラシメ一方ハ旧疏浚シテ拾見川尻ト平坦ナラシメ上堰下
堰共ニ通航ノ便ニ爲ル度ヲ計リ水壘ヲ築キ之ヲ増減スル
通船ヲ上下轉漕スル時先ツ下堰ノ船ヲ継堰ニ入レ下堰ニ接ス

上下漕米ノ下川末
五間ノ川底ニ
埋メ水

但既ニ上堰ニ入ル船ハ開鑿
ノ間ニ待タズ直ニ運
送スル也

開鑿ヲ開キ池水ヲ注入シ既ニ上堰ノ水面ト平均ニ至レハ
上堰ノ開鑿ヲ開キ継船ヲ上堰へ移シ上堰ノ船ヲ
継堰へ移シ轉漕全ク了ル上堰ノ開鑿ヲ閉キ継堰ノ水ヲ
注キ下堰ト水面平均スル下堰ニ接ル開鑿ヲ開キ轉漕
セシム轉漕何ヶ所アルモ皆斯クセシ
一継堰ハ最モ堅固ニ築造シ且開鑿ヲ設クル上下右皆堅石ヲ
以テ築造シ其引別ニ小極管ヲ設ケ一ハ上堰ノ水面ヨリ高クミテ水ヲ引クニ
一継堰ハ長三十五間横二十間トシ船長八間三拾艘余ヲ入ルニ充ツ位
継堰中三拾艘ヲ入ルハ先ツ上堰へ轉漕セシム上堰ノ船又
亦三拾艘ヲ入ルハ故ニ一回六拾艘ヲ轉漕スルヲ得然レハ一日

継堰ヲ注下セシ水ハ上堰へ
入ルス別ニ渠ヲ設ケ用
路ニ注カカセテ八次ノ継堰
ニ注入テキ溜池ニ引ク

國ヨリ極シハキ
事ニ非ラス

十面ナルハ六石艘ニシテ一歳敷拾壹万六千艘ノ轉漕ヲ得其
少船嘉キハ之ニ數倍ヲ加ルヲ得ヘシ

一中間最前向ノ地ニ孰キ池ヲ築キ其水ヲ継堰へ注入セル水ヲ蓄マルヲ

旱用水ニ妨ケマラシムヲ疑フ者アルヘシト雖モ其水ヲ継堰へ注入セル水ハ
下堰へ注下セシメサル趣向ニ之ヲ従来ノ用水路へ注下ハ固ヨリ

一滴ノ水量ヲ減スルニ非ラス尤モ一方ノ下堰ハ沼ト平坦ナラシメ

一方ノ下堰ハ控見川尻ト平坦ナラシムルヲ以テ實測ノ上其間

多分ノ高低アルハ疏浚ノ工事易カラサルニ亦継堰ヲ設

クルハ最高ノ継堰ヨリ注下セシ水ヲ前条ノ別渠ヨリ次ノ継堰

へ引キ更ニ用水適宜ノ場所ニ於テ池ヲ築キ用水補欠ノ準備

ヲ立ツヘシ

平奉河ノ方法概畧右ノ如クニ之アリ開鑿疏浚及海岸竹助開鑿

継堰又ハ池塘築造ノ費用共悉皆凡金拾万圓ニシテ成功ノ

見込ニ之アリ右船路開設ノ舉ニ於テハ無テ出金申合モ之ニ付

前文講述ノ事御賢察ノ上私共へ自善請被仰付候様仕

度許可ノ上ハ實^{速ニ果テ}度^{年致}ニ船路開設ノ義ハ未明治十一年七月

ヲ期シ急^急竣^竣功可仕候御採用可相成候ニ候^御仕^御標^御書^御圖

面等詳細調整可奉差上候仍ラ此段奉願候何分ノ御指

令被下度候也

斬姦状

石川縣士後島田一郎等叩頭時死仰テ 天皇陛下ニ奏シ俯テ三千有余万
ノ人衆ニ普告ス一節等方今我 皇國ノ時狀ヲ熟察スルニ凡ソ政令法度工
天皇陛下ノ聖旨ニ出ルニアラス又下衆庶人民ノ公議ニ由ルニ非ス独リ要路
官吏數人ノ臆斷專夫スル所ニアリ夫レ要路ノ職ニ居リ上下ノ望ニ任スル者
宜シク國家ノ興ニ瘡ヲ憂ル其家ヲ德ノ情ニ易ヘ人民ノ安危ヲ慮ル
其身ヲ顧ルノ心ニ易ヘ志忠誠ヲ專ニシ行節義ヲ重ニ事公_正ヲ主ト
シテ上下ニ報對スヘシ然リ而メ今日要路官吏ノ行事ヲ親視スルニ家ノ
經營之レ務メテ其職ヲ尽ス所以ヲ計ラス一身ノ安富之レ求メテ其任ニ
適フ所以ヲ思ハス狡詐貪婪上ヲ蔑シ下ヲ虐シ遂ニ以テ無前ノ國耻千
載ノ民害ヲ致スモノアリ今其罪狀ヲ条挙スル左ノ如シ曰ク
公議ヲ杜絶シ民權ヲ抑壓シ以テ政事ヲ私スル其罪一也

曰ク法令設施請託公行恣ニ威福ヲ張ル其罪二也

曰ク不急ノ土工^ホヲ興シ無用ノ脩飾ヲ事トシ以テ國財ヲ徒費スル其罪三也

曰ク慷慨忠節ノ士ヲ疏斥シ憂國敵愾ノ徒ヲ嫌疑ニ以テ内乱ヲ釀成スル其罪四也

曰ク外国交際ノ道ヲ誤リ以テ國權ヲ失墜スル其罪五也

公議ハ國是ヲ定ムル所以民權ハ國威ヲ立ル所以ナリ今之ヲ杜絶シ之ヲ抑壓スルハ則チ國家ノ興起ヲ阻隔スルナリ法令ハ國家ノ大典人民ノ標準ナリ今之ヲ設施スルハ則チ上^五綱ヲ蕩成棄シ下民心ヲ欺誣スルナリ國財ハ人民公供ノ費用以テ天下ノ要急備フルナリ今之ヲ徒費スルハ則チ民ノ膏血ヲ洩亡スルナリ慷慨忠節ノ士憂國敵愾徒則チ國ノ元氣ニシテ其興廢ノ係ル所以ノ者ナリ

今之ヲ疏斥シ之ヲ嫌疑スルハ則チ國家ノ衰廢ヲ求ムルナリ國權ハ國ノ精神ニシテ其独立ヲ致ス所以ノ者ナリ今之ヲ失墜スルハ則チ國家ノ滅亡ヲ招クナリ凡ソ之ノ五罪之レ其上ヲ蔑シ下ヲ虐シ以テ國家ヲ紊ルノ最モ大ナル者ナリ今亦其事實ヲ詳明スル別紙ニ録スル処ノ如シ其餘細大凡百ノ罪惡ニ至テハ悉ク枚挙ス可カラス而粗天下衆庶ノ指目スル所トナルヲ以テ今復之ヲ具載セヌ夫レ今日當路莖吏輩ノ罪惡已ニ如是ヲ以テ天下囂々物情紛々或ハ巷論風議以テ其非曲ヲ指責シ或ハ抗疏建白以テ其甚邪ヲ排斥シ而テ莖吏輩猶反躬悔悟ノ意ナク益暴ヲ振ヒ虐ヲ恣ニシ罰ヲ設ケ刑ヲ制シ以テ論者ヲ執囚シ議者ヲ拘束シ遂ニ天下ノ志士憂國者ヲ弄シ志士憂國者ヲ目スルニ反賊ヲ以テシ甚ニキニ至テハ

德謀密策ヲ用ヒテ以テ忠良節義ノ徒ヲ害セント欲ス而メ事
敗ルニ及ニテ則チ天下ノ民命ヲ駭リ各國ノ武備ヲ尽シテ之ヲ滅
以テ其跡ヲ掩フ西郷桐野等世ニ在ルニ當テハ茲更革大ニ畏憚
スル処アリ未タ其私曲ヲ極ケルヲ得ス今ヤ彼徒既ニ逝クヲ以テ
茲更革復顧慮スル処ナシ是ヲ以テ更ニ其暴悍ヲ肆ニシ轉其凶
ヲ逞フシ内ハ以テ天下ヲ翫物視シ人民ヲ奴隸使シ外ハ外國ニ阿順シ邦
權ヲ遺棄シ遂ニ以テ 皇統ノ推移國家ノ衰頽生民ノ塗炭ライ
クスマ昭々トシテ掌ヲ指カ如シ一郎等一念此ニ至ル常ニ未タ寧テ涕
流痛息セスシハアラス昨年西南ノ事起ルニ會シ一郎等固ヨリ西郷等
非凶エヲ圖ルノ反賊ニ非スシテ而シテ事端ノ起ル茲更革ノ德謀ニ由ル審
カニシテ且ツ西郷等若シ七ヒハ國家前途ノ事遂ニ已ムヲ知ル故ニ其名
多ク余理ヲ唱ヘ其正邪曲直ヲ鳴シ遂ニ起テ彼徒ヲ助ケ以テ茲更革ノ

罪惡ヲ討セント欲ス而メ遂ニ機宜ヲ得ス事務不可ナル者アリ以テ其志ヲ
遂ル能ハス既ニメ而メ思惟ス今茲更革ノ暴狀如此苟モ此輩ヲメ猶其職
ニ在リ久シク政事ヲ取ラシメハ將來國家ノ事收復測ルヘカラス今ノ計ヲ
ナス者速ニ茲更ヲ斬滅シ上ハ國害ヲ除キ下ハ民苦ヲ救ヒ以テ四方ノ義
氣ヲ振起シ天下ノ衰運ヲ挽回スニ在リト則チ議ヲ轉シ策ヲ移シ以テ
斬メノ事ヲ謀ル因テ當時茲魁ノ斬ルキ者ヲ數フ曰ク木戸孝允大
久保利通名倉具視是レ最モ巨魁ナル者大隈重信伊藤博文黒田
清隆川路利良ノ如キ亦許ス可カラサル者其他三條實美等數名ノ茲
更ニ至テハ則チ斗筭ノ輩算フルニ足ラス其ノ根本ヲ斷滅セハ枝葉隨
テ枯落セン然レモ一郎等同士ノ者寡少ナルヲ以テ數名ノ茲魁等ヲ以
テ之ヲ誅スルヲ能ハス故ニ先ツ孝允利通西巨魁中其一ヲ除カント欲ス
而メ固ラス孝允病ヲ以テ死ス蓋シ皇天其大茲ヲ惡シ既ニ其一ヲ

冥誅シ又一郎等ヲミテ其一ヲ斬戮セシメ以テ二兇ヲ併セ亡サスナリ
故ニ一郎等ノ今天意ヲ奉シ民望ニ随ヒ利ヲ振フテ以テ大義利
通ラ斃ス其餘ノ志徒岩倉具視以下ノ輩ニ至テハ想フニ天下
一郎等ノ事ヲ奉ルヲ觀テ必ス感奮興起メ以テ遺志ヲ継ク者
アリ此輩應ニ不日斬滅ラ免レサルヘシ臣一郎等頓首以テ仰テ
天皇陛下ニ白シ俯テ闔國人衆ニ告ク一郎等既ニ事忍ヒサルニ
出テ敢テ一死以テ國家ニ尽ス前途政治ヲ改正シ國家ヲ興起ス
ルノ事ハ則チ天皇陛下ノ聰明ト闔國人衆ノ公議ニ在リ願クハ
明治一割ノ御誓文ニ基キ八年四月ノ詔旨ニ由リ有司專制ノ
弊害ヲ改メ速ニ民會ヲ興シ公議ヲ取リ以テ皇統ノ隆盛國
家ノ永久人民ノ安寧ヲ致サハ一郎等臣等々ノ微衷以テ貫徹ス
ヲ得死メ而テ瞑ス故ニ決死ノ際上下ニ俯仰ニ聊カ卑意ヲ陳シ

併セテ其吏ノ罪惡ヲ狀シ以テ 聖王斷ニ贊シテ而メ公評ヲ
取ル一郎等感激懇迫ノ至ニ堪ヘス叩頭昧死謹言

明治十一年五月

石川縣 士族

島田 一郎

長 連豪

杉本 乙菊

脇田 切一

杉村 文一

浅井 壽篤

島根縣士族

斬姦狀中條奉スル所ノ五罪ノ事度ヲ詳明スル左ノ如ク

其一公議ヲ杜絶シ民權ヲ抑壓シ以テ政事ヲ私ス

一明治一新ノ初メ大ニ公卿列藩ヲ會シ 御誓文ヲ掲ケテ曰ク廣ク會議ヲ
興シ万機公論ニ決スト因テ當所公議所ヲ開キ諸藩ノ公議人ヲ會集シ政治
ノ得失將來ノ施設ヲ論シ傍ラ人民ノ建議ヲ取り以テ普ク衆論公議ヲ尽
ス而シテ幾ハクモナクニテ之ヲ廢シ暫ク集議院ヲ設ケ又廢シテ後左院ヲ
以テ之レニ代フ而シテ近來元老院ヲ立ルニ及テ又左院ヲ廢ス集議院及左院
ニ在テハ凡ソ建白ヲ致ス者アレハ其姓名住所ヲ簿録シ時々建白者ヲ召致
シテ其旨趣ヲ陳辨セシメ其建議ニ於ル可トスル者ハ之ヲ大政ニ進達シ
否トスル者ハ之ヲ建白者ニ下付シ可否相半ハスルモノハ院中ニ置テ後日ノ
參考ニ備フ而シテ習之ヲ建白者ニ告示ス建白者猶異論アレハ議官等面
議シテ反覆討論務メテ建白者ヲシテ其意中ヲ竭サシム言路猶通達

スル所アルカ如シ方今元老院ニ在テハ即チ然ラス凡ソ建議ノ件其事理ノ可否
ヲ論セス採用ノ有無ヲ令セス唯之ヲ黙收スルノミ聲ハ物ヲ水中ニ投ルカ如シ已ニ
入テ而テ其跡ヲ滅ス如斯ナレハ誰レカ口舌筆紙ヲ費シ此ノ無益ニ事ヲ為ス者
アラシ故ニ方今絶テ建白ヲナス者アラズ縱令之レアルモ復タ其言ヲ用ヒス
徒ラニ言路ノ名アツテ而シテ其実ナシ廣ク會議ニ興ニ萬機公論ニ決スルノ
御誓文ヲシテ殆ント地ヲ掃ハシム茲吏輩或ハ云ハシ西洋各國建白ノ規則ニ於
テ固ヨリ事理ノ可否ヲ論セス採用ノ有無ヲ令セス是文明國ノ通法ナリト
是實際ノ得失ヲ辨セスシテ安リニ文明國ノ事ヲ以テ口實トスル者ナリ夫
レ西洋各國ノ人民ニ於ケル自由ノ理ヲ全フシ立法議政ノ權ヲ有ス而シテ平
生所用官民ノ間迄切通暢ニテ復タ壓制束縛ノ弊ナシ故ニ其政治ノ是非
法度ノ利弊ノ如キハ大小議會ニ於テ其所見ヲ尽スヲ得其一身一家ノ得失
便否ノ如キハ則チ當路衙門ニ於テ其志意ヲ達スルヲ得如斯ナレハ則チ言路

洞開シテ下情通達セサルナシ猶何ノ建白ヲ要セン故ニ其規則ニ於ケル彼ノ如ク
シテ可ナリ本邦人民ノ如キハ則チ然ラス未タ大小議會ニ於テ政治ノ是非法
度ノ利弊ヲ陳スル能ハス未タ當路衙門ニ於テ一身一家ノ得失便否ヲ辨
スル能ハス人民ノ親シク下情ヲ通達スヘキ者獨リ建白ノ一路アルノミ如何
ノ之ヲ以テ西洋各國ニ比スルヲ得ニ且ツ若シ建白ノ規則ヲシテ文明國ノ通
法ヲ模擬セシメント欲セハ宜シク先ツ人民ヲシテ自由ノ理ヲ全フシ立法
議政ノ權ヲ得セシムヘキナリ今建白規則ノミ專ラ文明國通法ニ倣ヒ人
民ヲシテ自由奈論ノ權利ヲ得セシムルノコトニ至リテハ會テ文明國ノ通
法ニ倣ハサルハ何ソヤ豈ニ茲吏輩已レニ便ナル者ハ之ヲ取リ已レニ不便ナル
者ハ之ヲ取ラサント欲スル歟故ニ曰ク安リニ文明國ノ事ヲ以テ口實トス
ト明治八年四月 明詔ヲ下シ立憲政治ヲ建スルノ旨ヲ諭ス有司因テ
之ヲ天下ニ布告ス夫レ西洋各國立憲政体ナル者ヲ考フルニ立法行政司

政ノ三權ヲ分部シ而テ立法ノ權ハ國會議院ニ假ス則テ政治ノ大綱皆人民ノ議定スル所ニ在リ故ニ本邦既ニ立憲ノ政治ヲハ速カニ三權ヲ分テ議院立法ヲシテ人民ニ附スヘシ抑明治六年前參議副島種臣等民撰議院設立ノ議ヲ建シヨリ民會ノ論大ニ起リ當時ノ論是非相半スト且時勢漸ヤク進歩シ今之レヲ非トスル者ナシ而テ政府猶之レヲ設立スルニ及ハサルハ豈茲吏革猶之レヲ否トスル者カ茲吏革將ニ云ントス民會ノ事未タ本邦ノ人民開化ノ度ニ適セスト茲吏革政治ノ体裁百般ノ規則ヨリ屋舎道路器具雜品ノ未ニ至ルマテ本邦人民開化ノ度ヲ問ハス既ニ悉ク文明國ノ法ヲ取ル而シテ獨リ民會ノ一ニ至リテハ因循猶豫シテ其適否ヲ論セサルハ何ソヤ夫レ明治一新ノ始メ既ニ廣ク會議ヲ興スノ御誓文アリ後々遂ニ立憲政治ノ 詔令アルニ至リテハ是レ 獻旨夙ニ民會ヲ興スニ在リ而テ 詔令下ルヨリ已ニ數年人民ノ之ヲ希望

スル大旱ノ雲霓ヲ求ムルカ如シ而シテ茲吏革獨リ之レヲ欲セサル者豈ニ亦已レニ不使ナルカ為メ欽一新ノ初メニ當リ始テ職制ヲ立則テ記シテ曰ク諸官員在職四年ヲ期シ公撰ヲ以テ之ヲ取捨スト示後屢々職制ヲ改ハト且モ未タ在職年限ノ伸縮ヲ明言セス且ツ諸省各寮間々廢置黜陟アリト且モ要路數人ノ吏革ニ至テハ依然其等位ヲ占有シ殆ント門地ヲ以テ官ヲ為スカ如シ所謂公撰取捨ナル者果シテ何クニカ在ルヤ以上指陳スル所茲吏革湯ニ公平ヲ稱シ陰ニ私曲ヲ行ヒ民權ヲ掠奪シ下情ヲ壅塞スルノ一ニ非サルナシ此レ之レヲ言路ヲ杜絶シ民權ヲ抑壓シ以テ政事ヲ亂スト謂フ

其二法令謾施請諾公行恣ニ威福ヲ張ル
一近來政府ノ令禁ヲ出シ規則ヲ設クル皆人民ノ得失ヲ問ハス一ニ官吏ノ便否ニ依ル故ニ數々變ス所謂朝令暮改ナラザル者ナシ人民其繁苛ニ

堪へス其嚴刻ニ苦ム甚シキニ至リテハ謾リニ西洋各國ノ政令ヲ取りテ妄意
輕舉強テ人民ヲミテ遵守履行セシム人民其實際ノ苦情ヲ訴ヘ其急
困ヲ免レント欲スレハ官吏叱咤シテ曰ク是レ人民ノ義務ノミ是レ人民
ノ職掌ノミ或ハ曰ク是レ某ノ國ノ治ニ從フ是レ某ノ國法ニ因ル下民愚
昧義務ト云ヒ職掌ト云フ何物タルヲ知ラス某ノ國ノ治某ノ國法何ノ状々
ルヲ審カニセス遂ニ語窮シ意塞リ唯々黙々退テ歎息ス或ハ然謂王
ヲ懷クモ其權勢犯スヘカラサルヲ視テ怨ヲ吞ミ苦ヲ忍ヒ空シク黙止
スルノミ當今諸縣下ノ民多ク此状アリ我石川縣ノ如キ官吏ノ虛勢ヲ
張リ私曲ヲ行フ最モ甚シ古語ニ云フ上之ヲ好ム者アレハ下必ズ之
レヨリ甚クシ者アリト意フニ大政府令禁規則ヲ謾施スルニ非サレハ
何ソ各地方独リ如此キヲ得ニヤ法律ハ上下一般ノ正邪曲直ヲ理スル所
以ノ者ナリ而テ方今ノ法律姦吏輩ノ私スル者多シ井上馨カ銅山

ノノノ如キ世上頗ル物議ニ涉ル榎村正直曾テ司法ニ拘留セラレヤ平
然 時命ヲ以テ放タル然レモ是レ豈眞ノ 聖旨ニ出ニヤ固ヨリ姦吏
輩ノ矯為ニ由ル者必セリ故ニ當時司法ノ官吏數名之レニ因テ職ヲ辭ス
尾崎三郎井上毅カ井上三郎尾崎毅ノ論說ヲ取り新聞社ニ對シ訴
訟ヲ為スカ如キ縱シ其姓名ヲ作為スル者ト認定スルモ豈己レノ姓名ニ
非サル者ヲ取り疑似ヲ以テ訴訟ヲ為スノ理アラシヤ此ノノヤ既ニ之レヲ審
判シ然ル後始メテ其作為ニ出ルヲ知ルト雖モ其初メ井上等カ訴訟ヲ
為スニ當テ未タ他ノ証左ナク偏ヘニ想像疑察スルノミ司法官之レヲ
受理スル最モ法ニ違フ若シ想像疑察ト云モ亦之レヲ受理スルトセハ
今マ人其畜フ所ノ鶏ヲ失フ者アリ此日適々隣家鶏ヲ食スル者ア
ルヲ以テ他ノ確証ナシト雖モ之ヲ訴ヘ法官タル者亦能ク之レヲ受理
スルヤ其他新聞條例ノ始メテ出ルニ當テ其條例ニ觸ルト為シ獄ニ繫

カル、者多ク其理ノ覺ル可ラサル者アリ甚ニキニ至テハ法官ノ認定スル所ヲ以テ枉テ罰例ニ擬スル者アリト云フ頃日世ニ疎ク黒田清隆醉酹ノ餘リ暴怒ニ乘シ其妻ヲ政殺ス適々川路利良亦不知ヲ為シテ已ム嗟呼人ヲ政殺スルハ罪大刑ニ當ル而シテ既ニ其事世ニ傳許ス政府ニ在テハ被殺人ノ親屬之レヲ告ルヲ待テ其レヲ治メント欲スル歟未タ知ル可ラスト金利良ハ何物ソ身敬言視ノ長ト為リ天下ノ非違ヲ揅スルノ任ニ在リ而シテ黙々不知ヲ為ス者豈之ヲ私庇セント欲スル歟夫レ姦吏輩ノ法律ヲ私スル率不知斯獨リ法律ヲ私スルノミナラス凡ソ官路ノ事結託相依リ引謁相計リ互ニ曲ヲ助ケ私ヲ為スニ非サルナシ遂ニ一般風靡ニ小官細吏ニ至ル歟ヲ求メ縁ヲ攀テ黜陟用捨ニ此ニ由ル且高賈輩ノ如キ亦諂ヲ呈シ媚ヲ納レ贈賄ヲ行フテ以テ利ヲ釣ル吏輩相集ル必ス曰ク某ノ仕途ヲ得ル某氏ノ推挙ニ因ル

某ノ何官ニ就ク某氏ノ周旋ニ係ルト高賈輩相會ス必ラス曰ク某ノ長官ニ就カハ此請願ヲ了セン某ノ乃長ニ依ラハ此ノ許可ヲ得ニ或ハ曰ク某ノ卿ハ某等ト謀テ何ノ社ヲ立ツ某ノ大輔ハ某等ト共ニ何ノ業ヲ起スト其官路相請諾シテ非曲ヲ謀ルノ話官民相結納シテ私利ヲ營スルノ談喋々トシテ醜聲耳ヲ掩フニ至ル以上指陳スル所姦吏輩令禁法律ヲ私シテ以テ人ヲ輕重休戚ニ内託私謁ヲ專ラニシ以テ恩惠ヲ擲南ルノトニ非ルナシ此レ之レヲ法令護施請諾公行恣ニ威福ヲ張ルト云フ

其三 不急ノ土木ヲ起シ無用之修飾ヲトシ以テ因取ヲ徒費ス
一 近來姦吏輩ノ施設スル所專ラ營業工造或ハ道路市街ヲ繕ヒ或ハ官宅府庫ヲ作り或ハ宮室器具ノ粧ヒ華ヲ競ヒ美ヲ爭ヒ形容虛飾之ヲ務メ以テ天下ノ經營此レニ止マルト為スカ如シ姦吏輩或ハ云ヒ是レ亦開化文

明國ノ形況字ハヤルヘカラスト夫レ開化文明ハ形容ニ非ラスシテ実力ニ
アリ実力ハ本ナリ形容ハ末ナリ本ヲ務メテ而シテ後ケ末ニ及ハ猶ホ草
木ノ根本ヲ培養シテ枝葉随テ繁茂スルカ如シ今テマ茲吏輩ノ学ヲ所
其末ヲ学ニテ其本ヲ学ハス其形ヲ求メテ其実ヲ求メサルナリ歐洲各
國都城街衢ノ盛ナル室屋器具ノ美ナル鉄道ヲ布キ電信ヲ通シ凡
斯燈ヲ點シ民事日用至便至利ヲ極ムルニ至ル所以ノ者ハ何ソヤ各
國英雄輩出シテ境域ヲ開キ威力ヲ界ニ張リ國富ミ兵強ク獨立
口致シテ然ル後々其餘カラ以テ国内ヲ修成ス然レモ其盛整全備ヲ
ナスハ亦多年ヲ待テ以テ之レニ至ルナリ然ルニ我今日中興維新ノ初メ百
事未定ノ時ニ於テ彼ノ隆政極治ノ景况ニ比ヒ又其備ルヲ一時ニ求メ
ンタメニ益々費用ヲ消費ス本末緩急ノ序ヲ失スルト云ヘシ此之レヲ不急
ノ工エヲ興シ無用ノ修飾ヲ事トシ以テ國財ヲ徒費スト謂

其四慷慨忠節ノ士ヲ疏作シ憂國敵愾ノ徒ヲ憚疑シ以テ内乱ヲ釀成ス
一明治六年十月西郷等五名ノ參議職ヲ辭シニ廟堂解体ス示來物議紛
起シ内乱相尋ク其原由ヲ推スニ征韓ノ議及吏輩ノ沮止スル所トナリ
五參議奮激官ヲ解クニ至ル夫レ征韓ノ議及吏輩若シ其見ヲ異
ニシ國家ノ為メ其職掌ヲ尽サント欲セハ何ソニ廟堂ニ於テ公平ヲ執リ
理非ヲ明ラカニシ以テ抗議セサル事此ニ出テス陰ニ相結納シ左右支
吾ニテ遂ニ其事ヲ沮喪スル者確乎不拔ノ論上日ナク自カラ其説ノ立
タサルヲ知ルカ故ナリ佐賀縣士ノ征韓議ヲ唱フルヤ其初メ未タ兵ヲ奉
ケ政府ニ抗セント欲スルナラス其同志ノ徒集テ事ヲ議スルヲ以テ政府
其異圖アルヲ疑ヒ平然縣官ヲシテ兵ヲ率ヒ之レニ臨マシメ遂ニ以テ
彼ノ徒ノ激動沸起ヲ致セリ是レ此ノ騷擾政府ノ之レヲ激スルニ非
スシテ何ソヤ夫レ政府ノ人民ニ於ル撫ヒテ之レヲ鎮スルニ在リ焉クニ

激シテ之レヲ乱スヲ得ニヤ前原一誠ノ事ノ如キ事端彼レヨリ甚スル者ノ如シト雖モ其原亦艾吏輩ノ彼ヲ疏存スル甚タシク彼ヲミテ居常憤懣セシムルニ由ル政府ノ人民ニ於ル公正以テ之レヲ服スルニ在リ焉ニテ憎惡嫌疑シテ之レヲ怒ラシムルヲ得ニ夫レ江藤前原二徒ノ拳激動憤起ニ出テホタ全ク其正ニキヲ得スト雖モ政府固ヨリ失体少ナカラス艾吏輩ニ徒ヲ指シテ賊トスト雖モ艾吏輩反テ真ノ国賊ナル者ナリ上ヲ謾リ下ヲ欺キ坐シテ政權ヲ弄シ以テ私利ヲ營スニ徒豈ニ敢テ 聖天子ニ敵シ国家ヲ覬覦スルナラシ憂國ノ至情忍ヒカレニ出ツルノミ艾吏輩焉ニブ之レヲ目スルニ反賊ヲ以テシ自ラ居ルニ朝廷ノ大臣ヲ以テスルヲ得ニ昨年鹿兒島ノ事ニ至テハ則チ全ク艾吏輩ノ陰謀密策ニ出ル所ニシテ世亦粗々其由ヲ聞ク然レモホタ其本末ヲ審ラカニセサル者多シ故ニ今マ之レヲ詳明セン嚮キニ西郷

桐野等官ヲ解クニ當テ近衛兵中沸騰シ各病ヲ稱シテ職ヲ辞ス其徒去テ因ニ飯ルニ及ニテ西郷等之レヲ撫循シ学校ヲ設ケテ之レヲ教勵ス是レ今日艾吏輩ノ偷安無事ニ狎ルヲ以テ国家外難ノ至ルニ際セハ一朝保ツ可ラサルヲ知ル故ニ其時ニ當テ国民ノ義務ヲ尽サント欲スルナリ豈ニ他意アラシヤ而シテ艾吏輩自カラ忌憚指ク能ハス密カニ間諜ヲ遣リ其動靜ヲ窺ハシメ刺ヘ密謀ヲ囑ミテ將ニ隙ニ乘シ西郷桐野篠原ノ三名ヲ害セントス而テ其事発覺シ西郷等自カラ上意シテ其曲直ヲ推糾セント欲スルナリ艾吏輩刺客ノ事ヲ以テ私学校徒ノ構造ニ出トスフト雖モ是レ甚タ其理ナシ如何トナレハ艾吏輩ヲシテ本ト虚心ナラシメハ何ヲ以テ初メヨリ中原已下數十名間諜ヲ遣ルノ事自カラ刺客云々ノヲ吐露セシヤ縦ヒ拷尋ノ苦ニ堪ヘスシテ其一兩人或ハ無根ノ言ヲ吐クモ其言ヲシテ虚ナラシメハ人々

区々ノ一ヲ去フヘシ何ソ教十名符合ノ一ヲ陳セニ豈ニ之ヲ以テ率カ
ニ休ケテ以テ強証ノ一ト為スヘケンヤ若シ女史輩初メヨリ中原已下
ヲシテ間諜ヲラシムルニ非ス又之レニ嘸スルニ密謀ヲ以テスルニ非スミテ
而テ中原以下一同無根ノ事状ヲ吐露スト為サハ女史輩此ニ於テ公
平ヲ執リ之ヲ処置スルニ先西郷等ノ兵ヲ引テ出ルヲ処ムヘキ歟
聊カモ又中原已下無根ノ言ヲ吐露スルヲ糾スヘキ歟西郷等ハ固ヨリ中
原以下ノ辭ヲ信シテ出ル者ナリ故ニ先ツ中原以下ヲ糾サレハ其事
情ヲ審ラカニスルニ由ナカラシ然ルニ事斯ニ出テスミテ事情ヲ曖昧シ
カヲ尽シテ之レヲ撲滅セント欲スル者ハ女史輩固ヨリ其事由ヲ糾スラ
欲カス將ニ麗シ其跡ヲ掩ハントスルマ明ラカナリ女史輩或ハ之ハ西郷等
既ニ固憲ヲ紊ル固ヨリ誅滅セサルヘカラス而テ其事甚タ急速勢最
モ猖獗是ヲ以テ其事由ヲ糾スニ暇アラスト夫レ政府ノ以テ政府タル

所公明正大以テ事ヲ至当ニ処スルニ在リ縱令ニ西郷到誅スヘキノ罪アルモ
其事由ニ於テハ詳カニスヘキ者ハ之レヲ詳カニ糾スヘキモノハ之レヲ糾
シ然ル後々誅ヲ加フヘキナリ豈ニ政府ノ職掌ニ於テ事急速勢猖獗
ト云テ是非ヲ分タスミテ以テ事ヲ処スルノ理アラヤ且ツ堂々タル全国
ノ勢カヲ有スルノ政府ニシテ何ソ一私学校徒ヲ恐レ事由ヲ糾スニ暇ア
ラヌト云フヲ得レヤ此ノ時ニ當テ女史輩直ニ公明正大以テ事ヲ至当
ニ処セント欲セハ亦何ノ難キコトアラシ当路ノ者一人其事ニ任シ 勅命ヲ
啣シ法吏其他ノ理事者ヲ率ヒ西郷等ノ出路ニ臨ニ 勅命ヲ傳ヘテ
其出進ヲ止メ其事由ヲ審理シ情実ヲ判決シ其事全ク中原以下ノ
虚出ニ似スルヤ之レヲ罪ニ或ハ西郷等ノ構造ニ出ルマ之レヲ刑ニ以テ
諸事至当ニ処スヘキノ政府既ニ如斯公明正大ノ処分ヲ為シ而シテ
西郷等猶ホ之レニ服セシテ輕拳暴動スル者アラハ則チ是レ與ニ國

家ノ反賊人民ノ讎言敵ナリ政府討テ之レラ威スル因ヨリ其義ナリ
天下後世誰レカ之レラ非議スル者アラシク其輩豈ニ是レ等ノ道
理ヲ辨セサラニヤ唯自カラ視ルニ竟ニ免レサル所アリ是ヲ以テ 勅命ヲ
矯リ王師ヲ私用シ西郷等ヲ誣ユルニ反賊ヲ以テシ以テ天下人民ヲ欺キ
已レカ姦計ノ跡ヲ掩フ然レモ天地誣ユヘカラス衆人欺クヘカラス世上悉ク
其姦計ヲ覺ル今其暴威ヲ憚カラサルカ故ニ敢テ之ヲ其口ヨリ出サスト
雖モ後世自カラ公論ノ在ル有リ豈ニ其惡名ヲ遁レシヤ世人或ハ西郷
等兵ヲ引テ出ルヲ咎メ國憲ヲ蔑棄スル者ニシテ罪誅ヲ免レストウ
ト雖モ是レ其一ヲ知リテ其ニヲ知ラス其本ヲ計ラスシテ其末ヲ論スルナリ
夫政府ハ人民ヲ保護スル所以ニシテ而シテ國憲ハ人民ヲ保護スルノ
具ナリ故ニ政府能ク保護ノ任ヲ尽シ國憲能ク保護ノ用ヲ為サハ則
テ人民之ヲ奉戴遵守シテ以テ其安寧ヲ受クヘキナリ今マ政府自カラ

保護ノ任ニ背キ保護ノ具ヲ破リ反テ無罪ノ人民ヲ暴害スルニ至テハ則チ
政府其政府ニ非スシテ國憲亦守ルヲ得ス且ツ人民モ亦自カラ本分ノ權
利ヲ育ス豈ニ故ナクシテ其暴言ヲ受クルノ理アラシヤ故ニ西郷等出テ其
事由ヲ糾サント欲スル固ヨリ其權利ノ在ル所ナリ西郷等既ニ出テント欲
スルニ當テ私學校徒保護隨行セント欲スル亦其義ノ在ル所ナリ彼徒
多年西郷ニ親近追隨スル者他ナシ共ニ國家ノ為メニ尺ノ所アラント欲ス
ルナリ故ニ彼ノ徒西郷等ヲ保護スルハ即チ國家ノ為メニ之レヲ保護スル者
ナリ其兵ヲ携フル者ハ政府既ニ保護ノ任ニ背キ反テ之ヲ暴害セント
欲ス人民ニ於テ何ソ自ラ戒心セサルヘケンヤ事此ニ及ビ大本既ニ廢ス而シ
テ猶ホ已ク枝葉ノ法則ヲ去ラ則チ一ヲ知テニヲ知ラス本ヲ計ラスミニノ
末ヲ論スルモノト云フヘキナリ我輩務メテ西郷等ヲ保護スルニ非ラスト
虫モ世人多クハ本末常變ノ理ヲ暗ク燕雀ノ心ヲ以テ大鵬ヲ非スル以テ

聊カ之ヲ辨スルノミ以上皆陳スル所也
其後更革ノ暴戾至ラサルナリ以テ物
議紛擾ヲ致ス者如斯此レ之レヲ慷慨忠節ノ士ヲ疏介シ憂國敵愾
ノ徒ヲ擯疑ニ以テ内乱ヲ釀成スト云フ

其五外國交際ノ道ヲ誤リ以テ國權ヲ失墜ス

一我國海外ノ輕侮ヲ受ル蓋シ曰幕以來已ニ久シ而テ其弊害今日ニ至リ
益甚シ凡ソ彼我政府人民ノ交際應接ノ事皆彼我ヲ拒ムノ勢ヒマリ我
レ彼レニ順フノ情アリ殊ニ民間日用通商貿易ノ際常ニ彼レ驕テ而テ
我レ屈ス然レモ其情勢馴致シテ此ニ至ル者一朝遽カニ之ヲ挽回セント欲
スルモ得ヘカラス宜シク條理ヲ遵守シ順序ヲ履行シテ以テ徐カニ之ヲ
処スヘキナリ而テ其最モ急要ナル所ノ者條約改正ニ過ルナレバ條約改正
セザレハ以テ國權ヲ回復スル能ハス然レモ之ヲ改正スル至難ノ事トス其故
何ソヤ我國ノ武備未ダ張ラス國力相對セサルヲ以テナリ故ニ今日ノ先務

專ラ武備ヲ張リ守禦ノ固メ攻戰ノ具ヲ備フルニ在リ則チ而シテ之ニ供スル
所ノ費額莫大則チ冗費ヲ去リ不急無用ノ事ヲ止メ當時ノ支度ヲ節
減シテ以テ非常ノ用ニ供セザレハカラス故ニ一即等外交得失ヲ論スル今
日交際上ノ是非ヲ言ハスシテ而テ條約改正ノ事ヲ云フ條約改正ノ事
ヲ言ハスシテ而シテ武備ノ充實ヲ云フ而シテ武備ノ充實ハ必ス當時
ノ支度ヲ節減シテ以テ非常ノ用ニ供スルニ在リ然ルニ方今ノ更
革ノ所為ヲ視ルニ安ニ依リ無事ニ慣レ不急ノ工造無用ノ虚飾ヲ
事トシ武備ノ充實ヲ置テ而テ問ハス當時ノ支度益夥多ニシテ以テ
非常ノ用ニ供スルナレバ一新以來既ニ十餘年堡壘マ船艦マ銃砲マ丸
守禦ノ固メ攻戰ノ具未ダ一ノ整頓修備スル者アラス今日ノ狀ヲ以テ
之ヲ推スニ將來幾年而シテ能ク武備ヲ充實スル是レ未ダ知レヘカラス故
ニ條約改正ノ期去テ之ヲ改ムル能ハス今年改メス明年正サス國家ヲ

テ遂ニ大患ニ至リ人民ヲヒテ至難ニ赴カシムルヤ必セリ明治七年臺灣
ノ事ノ如キ抑モ何ノ所為リ伎ヲ武ヲ瀆シ兵衆ヲ傷殘シ國賊ヲ
耗費シ竟ニ支那ノ籠絡スル所トナリ道路修繕等ノ費ト名ケ僅カノ
金額ヲ收取シ反テ内國ニ廣布スルニ償金ト号ス其人民ヲ欺ク何ソ
一ニ斯ニ至ルヤ朝鮮修好ノ事亦無替ノ甚ニキト云フヘキ抑モ三韓ノ我
國ニ隸屬スル仲哀 應神ノ朝ニ始マリ示來歴韓使幣ヲ絶タヌ中世我内
乱ニ會シ又シク貢獻ヲ欠クテ以テ豐臣氏武カラ振フテ稍々旧權ヲ復ス
ルニ至ル然ルニ今代ニ至リテ彼レト對当ノ文際ヲ修ム豈歷朝 皇灵ノ
震怒ヲ恐レサラシヤ且ツ彼今マ猶ホ使幣ヲ支那ニ致シ臣僕ノ礼ヲ執ル
則チ我レ既ニ耳シテ支那ノ下凡ニ立ツ者ニ似タリ其國体ヲ汚ス最取モ
大ニナラスヤ樺太交換ノ事ニ至ツテハ更ニ無前ノ國辱ヲ戴ノ失体ト
云フヘキ是名ハ交換ト云フト雖モ其更ハ却奪セラルカ如何トナレハ

我カ與フル所ハ則チ有用ノ地ニシテ彼ヨリ受ル所ハ則チ無益ノエヨリ磨言ヘハ
棄物ヲ以テ空位ニ易フルカ如シ且我レヨリ求ムルニ非スシテ彼レノ望ミニ隨フ
ナリ古ヘ支那京未ノ夷狄ノ侵凌スル所ト為リ賣國ノ姦臣目前ノ安キ
ヲ苟偷シ内地ヲ割チシテ一時ノ無事ヲ貪ル者則チ是レナリ本朝開國
以來未タ此ノ汚辱ヲ被ラス今日ニシテ始メテ此事アリ 今上陛下ヲ
シテ皇祖ノ意思ニ負カシムルハ則チ姦吏輩ノ所為ニシテ其大罪誅ニ容レ
サル者ナリ琉球ノ事甚タ非理ナル者アリ彼レノ歎訴スル所其故ナキニ非ス何
ソ其ノ請フ所ヲ許シ直チニ支那ニ應接シテ以テ判然我カ版圖ニ飯セシメ
ス而シテ彼ノ小弱ヲ侮謾シ却迫シテ其國政ヲ改革シ其民情ヲ紛乱ス
姦吏輩ノ魯ト琉球トニ於ケル何ソ其驕論相反スルヤ姦吏輩彼ノ狼話
ヲ聞カスマ狼ノ虎ニ向フ尾ヲ垂レ舌ヲ卷キ叩頭屈足唯其免サレシ
ヲ討ル其狐狸ニ向フ牙ヲ鳴シ瓜屠ニ威怒甚タ猛ナリト云フ姦吏輩

ノ為ス所是レニ異ナラス夫レ外交ノ主トスル所弱ヲ侵サス強ニ屈セス條
理ヲ正フニ信義ヲ重スルニ在ルナリ又吏輩何ツ之ヲ思ハス專ラ驕逸
諂媚ヲ事トスルヤ以上指陳スル所姦吏輩ノ偷安ヲ以テ國体ヲ汚
シ益外侮ヲ招ク者如斯ニ此レ之ヲ外國ニ交際ノ道ヲ誤リ以テ國權ヲ
失墜スト謂フ

我輩等本日姦吏大久保利通ヲ逢ニ戮殺スルハ國家ノ為メ萬々坐
視スルニ忍ビサルヲ以テナリ其事情別紙ニ陳述スル所ノ如シ而シテ
姦吏輩ノ罪惡ニ於ル既ニ天下人民ノ親視熟知スル処ト為
ル多シ故ニ我輩等自ラ信ス此舉ヤ天下共ニ許ス処ナルヲ然リ
ト虽モ天下ノ廣キ人衆ノ多キ或ハ此舉ノ趣意ヲ明瞭詳悉
セサル者アル未タ知ル可ラス中外ニ流布セシメ後世ニ伝フルヲ之レ

希フ意フニ新聞社ハ天下ノ公議ヲ通達シ國家ノ正氣ヲ振起スル
ヲ以テ當務ノ任トスル処ノ者ナリ故ニ往年各社勉メテ謹議直
論以テ政事ノ是非ヲ指陳シ吏務ノ得失ヲ辨説シ為メ四討
ニ罹リ獄ニ陥ル者多シ我輩等毎々感激奮怒ノ情措ク能ハス
平生私淑ヲ以テ同志益友ト為セリ因テ今我輩ノ赤衰ヲ各
社ニ寄托ス以テ之レヲ世ニ明示セシメント欲ス貴社請フ我輩
ノ衷情ヲ了シ諸君當務ノ任ヲ尽サントラ思ヘ以テ区々ノ四討例
ヲ顧ミルナリ速カニ別紙ノ文ヲ新聞ニ記載セラレントラ至囑至囑
拜具

明治十一年五月

石川縣 士族

長 連豪

島田 一島

近事評論社御中

二伸此書ハ我輩等途ニ大久保利通ヲ要撃スルノ際郵便ニ投ス
ル所ナリ朝野新聞社ハモ之ヲ囑托セリ日ニ報知等ノ各社ハ
貴社ヨリ御通達ヲ願フ

其等伏シテ本邦近來ノ狀勢ヲ察スルニ轉々痛歎太息ニ
堪ヘサルモノアリ内ハ民力其衰耗ヲ極ムルト雖モ政府未タ之
ヲ休養スルノ道ヲ知ラサルモノ如ク外ハ外交其宜ヲ失スルヤ
甚大ナリト雖モ高島者未タ之ヲ挽回スルノ氣力ナキモノ
、如シ志士人民ハ慨然トシテ憂國ノ淚ヲ揮テ進ニテ政
府ニ方策ヲ献スルモ政府有司ハ傲然トシテ蝟毛ノ望壽
ヲ運ラシテ飽マテ天下ノ耳目ヲ蔽ハントス今テヤ民力
休養ノ要多ナル外交善後ノ処ハ必須ナル決シテ
一日モ猶豫ス可ラズ然ルニ政府ハ自ラ良策ヲ畫シテ
之ヲ調理セズ又在野有識ノ忠謀ヲ納シテ之ニ當リテ
サス況ニヤ人民ノ輿論公評ニ至テハ更ニ之ヲ顧サ
ルモノ、如シ是レ抑モ誰ノ過ソヤ人民春蠶愚ト雖モ

而カモ高ク能ク其小ヲ尺ニセリ或ハ時運ノ不可ナリ
モ一アルヘシト雖モ要スルニ執政者サレノ思ニアラエシテ
何リヤ嗚呼我政府ノ失政タリ實ニ大ナリ其等今胞
兄弟ハ人テヤ路ニト困突ニ陥リタリ四海困突セハ
天禄豈ニ能ク永キヲ保タニヤ 其等今現内閣ノ
更迭ヲ望ム然リト雖モ其等ノ更迭シテ望ムルハ
敢テ更迭其物ヲ切望スルニ非ラズ如斯ナラサレハ或
ハ以テ民カ体善良ノ希望ヲ達スル能ハサラン一ヲ以テ
ハナリ如斯ナラサレハ或ハ以テ外交善良後ノ処スル希望
シラエフスル能ハサラン一ヲ以テハナリ故ニ若シ現内閣
ノ德望ト威カトヨシテ能ク其等ノ希望ヲ達スル能ハ
スルヲ望ムハクニハ山堂何カ故タニ之カ更迭代謝
ヲ促シテ以テ天下ノ波瀾ヲ招クニヤ是レ誠ニ不得止
ハナリ乃チ茲ニ其等ノ希望ヲ陳ヘシテ以テ駟カサ方
案ヲ進メントス

竹笋売條 地租減輕之事

其等謹ムテ按スルニ今ノ時ニ方テ民カ体善良スルノ
道惟一ニ地租ヲ減輕スルニ在リ歟請フテ之ヲ細
陳セン

竹笋売 減租ハ明治政府カ地租改正

ノ一大基礎タル事

減租以テ土地ノ買換ヲ輕カラシメントノ一事ハ實ニ我
明治政府ノ一大基礎タル地租改正ノ基礎ニシテ
而カモ其精神骨髓タリシヲ觀ル抑々地租ハ人

民休戚ノ數系ル所政府経済ノ基エク所也去ルハ地
租改正ノ事一タリ決シテ一朝容易ニ成シ得ヘキノ業
ニアラサルナリ是ヲ以テ明治二三年ノ交民部有中
始メテ全国ノ田積ヲ更換スルノ議アリ次テ神田氏田
租改革ノ議ヲ建テ大ニ活券税法ノ旧税法ニ優シ
ヲ以テ主張セラルシ四年ニ租税審議ノ税法改正ノ畫策
ヲ進メ時ノ大藏卿大久保氏之ヲ採用シテ頗ル改正
ノ意見ヲ上ラシ遂ニ正院ノ納ル所トナリ地券法ニ格
ハ條ヲ制定施行セラレシヨリ尔來有識ノ夫天賦ノ才
幹ノ公論ヨリ六年七月ニ至リテ始メテ上諭ヲ以テ之ヲ
天下ニ布告スルニ至リ然レ其功績ノ略々諸ニ就キタ
ルハ格年ニシテ其業ノ全ク大成セルハ實ニ治四年ノ
六月ニ在リ其間千百年ノ困難ニ遭遇シ多ク變
遷ニ邂逅シテ漸ク斯ノ改正ノ一大盛業ヲ完シ
タリ政府ハ此ニ就テ勤メタリト謂フ可シ矣試ニ之シカ
主眼トスル所ヲ釋スルハ首布存封建ノ治下ニ在リ
テ税法ノ非常ニ混亂セルヲ整理スルハ其稅率ノ過
重ナリシヲ更セ早セントスルニ外ナラス即チ旧法ノ換見
ニ右盛ノ制ヲ全廢シテ地券ヲ發行シ地價ニ由テ
地租ノ法ヲ立ツルハ如キ又旧法ノ稅率三公七民ヨリ
七公三民ニ違セルヲ一截斷シテ法定地價百分之三
ト定メタル如キ以テ觀ルルキナリ故ニ曰ク地租ノ重ハ
我明治政府ノ地租ヲ改正スルノ一大基キニシテ而カ
モ其精神ノ骨髓トトリトル來早霜ヲ経ルノ指有

餘年ナリト雖モ明治政府山豈ニ此ノ精神ヲ棄テテ
我新税法山豈ニ此ノ基本ヲ失ハニヤ然レハ則チ時ノ
宜シキニ從テ漸ク税率ヲ減低スル一是レ山豈ニ我新
税法ノ主旨ニ合フモニアラザルヤ

第二

漸次税率ヲ減低シテ終ニ百分之一ニ
至ラシメシ事ハ上ハ

天皇陛下ノ

明勅ニシテ下ハ人民ノ渴望スル所ニ事

明治六年七月二十八日ノ上諭ニ曰ク

朕惟クニ租稅八國ノ大事人民休戚繫乎此

前其法一ナラス寛苛輕重率不其平ヲ得ス仍テ

之ヲ改正セト欲シ乃チ所司ノ群議ヲ採リ地方官

ノ衆論ヲ采リ更ニ内閣諸臣ト共ニ論其宜定之

ハ公平畫一ニ歸セシメ地租改正法ヲ頒布ス庶幾ク賦

ニ厚薄ノ弊ナリ民ニ累逸ノ偏ナカラシメン主者奉

ト其條例第六條ニ曰ク

従前地租ノ係ハ自ラ物品稅家屋上ノ稅等混淆致

居候ニ付改正ニ當テハ断然区介シ地租ハ則チ地價

ノ百分之一ニモ可相定ノ處未タ物品等諸稅目與ラ

サレヨリ先以テ地價百分之一ヲ稅額ニ相定候得共

向後茶煙草材木其他ノ物品稅追々以テ行相成

歲入相増其收入額ニ百分之内以上ニ至リ候節ハ

地租改正相成候土地ニ限リ其地租ニ右新稅ノ

増額ヲ割合ヒ地租ハ終ニ百分之一ニ相成候迄

漸次減少可致事

ト我新税法ノ精神タリ日取初ヨリ漸次ニ稅率ヲ減低シ
テ總ニ百ノ之一ニ至ラシムルニ在リタルノ上文ニ於テ略々タリ
是レ畏クモ我至仁至慈ナル

天皇陛下ノ風ニ明勅ヲ下シ賜ハタル所ニシテ又其ヨ
リ天下億兆ノ渴望セル所ナリ誰シカ 聖詔ノ委キヲ

感戴シ永ク其ヒヨク夫キ行セサラニヤ滿天下ノ人民
夫ナク頸ヲ延ヘテ物昂新稅ノ突行ヲ違フ終ニ地稅ノ

率下リテ百ノ二ニモ及ハントテ渴望雷電仰セサリハ
ナシ然レハ別々種々物品ノ新稅起リ尙入大ニ増額

セルノ人テ曰ニ於テ浸ク地稅ヲ減少シテ当初預期ノ程
率ニ近カシムル事一是豈ニ天皇陛下下ノ風ニ望ムセ
賜ク所ニシテ人民ノ日取七仰望ムル所ニ非ラスヤ

〇年三 百ノ三ノ制定ハ當時不得已ニ出
テ百ノ二半ノ地稅ハテヤ更ニ減
少ヲ要スル事

之ヲ我邦雜新前向稅率平均五公五民ノ制ニ比シハ
地稅百ノ三ノ制定ハ大ニ輕減セラレタルモノニシテ明治
代之德政之ニ過クルモノナシト雖モ法ニ之ヲ表西諸
國ノ稅率ニ照スラス高ト歎ル過重ナルヲ覺ク聞クカ
如クニハ英ハ重キモ百ノ二ニ過キス輕キハ則チ二百ノ
二ニ及ヒ日耳曼ニ在テハ百ニシテ一、六ヲ取リ佛ハ百ノ
一、七ヲ取リ荷蘭ハ百ノ一、八ヲ取リハ、九ヲ取リ
歐洲中取モ多ク者ヲ要スト聞テ壤地利國ニ於テモ

高ハ百々ノ二ニ過キス其地政米ニ固スルモノタメシト雖モ
未タ地稅ノ重キ本邦ノ如キヲ觀スト尤シハニヤ我政府
ニ於テモ雜稅ノ初メ國事ノ極メテ多端ニシテ國用實ニ
此給セサルニモ物ハラズ地價百々ノ三ノ稅率ヲ高ホ重
シトナシ漸次減低シテ終ニ百々ノ一ト爲メノ計畫ヲ定
メテタリ是レ前段指ケタリ條文ニ於テ明ニ觀ル所ナリ
百々ノ三實ニ重キヲ知ト雖モ當時ノ國情孰タニ稅
源ヲ開クヲ許サズ國用爲メニ必クセサルヨリ不得止シテ
斯クハ過重ナリ是レ率ヲ設ケラセタリ然リト雖モ彼ノ時
治九年ノ世上不足ニ果ノ悲歎ヲ極メ村ニ米價ノ激變
ヨリ農家非常困憊ニ陥ルヤ政府ハ断然稅率五重
ヲ減シテ輸入ハ百々ノ四ヲ裁カセタリ其意ニ曰ク

朕惟ニ維新日淺ク中外多事國用實ニ乏クニシス
而シテ兆民猶ホ疾苦ノ中ニ在リテ未タ富庶ノ沃
ヲ被ラサシヲ致シ是裏キニ田稅法ヲ改正シテ地價百
々ノ三トナシ偏重ナラシメントス今又親シク稼穡艱
難ヲ察シ深ク休養ノ道ヲ念フ更ニ稼稅額ヲ減
シテ地價百々ノ二ニ過ルニ至ラト爲サン有司宜シク痛
ク裁費ヲ節減シテ以テ朕カ意ヲ替フ可シ
ト嗚呼是レ實ニ拾年一月政費ノ節減地稅輕減ノ
聖詔ニシテ天下人民深ク子愛ノ厚德ニ感心固ク
心ニ銘シテ志シサル所ナリ我政府ハ減稅ニ銳意ナシ益
々以テ確明モ是レト謂フ可シ抑モ政府ハ十年ニ在テ
改正ノ事業業漸ク成就シテセント民費日ニ減少ノ狀アリ

民情静オナラズシテ動モスルハ戦乱ヲ醸サントスルノ勢カアル
 秋ニ当テ高ト且ツ減租ノ事アリ人々以テ古今絶無ノ徳
 政ト考ス良ニ所以アル也今ヤ物税民費ニ月ニ加
 ハリ十年ノ内ニヨリ十九年ノ内ニ至ル十年間ニ國稅
 ヲ増ス一實ニ二千二百三十五万七千二百八十二兩巨
 額ニ達シ十二年ノ内ニヨリ十八年ノ内ニ至ル七年間ニ地
 方稅ノ増額又實ニ二百九十九万六千四百七十八兩
 ニ至リ請フテ之ニ表ニ於テ之ヲ相証セシ

(第一) 國庫歲入額表

五二、三三八、一三三	明治十年度國庫歲入額
七四、六九五、四一五	全十九年度
二二、三二七、二八二	全十九年度増額

(第二) 地方稅收入額表

一一、三九〇、九九一	明治十二年度地方稅收入額
一四、三八七、四六九	全十八年度
二、九九六、四七八	全十八年度増額

又明治七年以來物産稅ノ増額ヲ觀察スルニ實ニ左
 表ノ如シ

(第三) 物産稅全額年表

明治七年度	二、一一〇、〇三八
全八年度	三、五五八、八四二
全九年度	二、九九〇、七九二
全十年度	四、三六三、九三一
全十一年度	六、三八三、八〇〇

二十二年度	八、一一九、四四七
二十三年度	七、二一七、八三五
二十四年度	一、二、〇九九、六八四
二十五年度	一、二、六八八、二〇七
二十六年度	一、九、八一七、五一一
二十七年度	二、〇、三三五、二四八
二十八年度 (年度九ヶ月に付首ク)	一、九、六九三、九六七
二十九年度	一、八、一二九、八八六
三十年度	

以上

因是 觀之政府ノ六十七月ニ於テ物産稅二百萬円以上
 二連ニルルハ漸次地ヲ減輕シテ百餘ノ一ニ至ラシムルヲ
 豫約セラシタルノ翌年ニ度ヨリ既ニ昔ニ其豫約
 ヲ履行セラルヘキ條件ノ増額ニ達セルヲ 觀入況ニヤ
 爾來年々逐フテ増加シ去ル十七年度ノ如キハ實ニ二
 千有餘萬円ノ多額ニ達セルニ於テヤ 政府ハ最早
 此秋ニ當リ如此ノ多額ノ物産稅ヲ徵收シ十カラ早裏キ
 ノ豫約ヲ守視シテ之ヲ破ルルハ或ハ大ニ政府信
 用ヲ失ハンコトヲ慮リタルモノ、如ク併然其年三月
 十五日ハ太政官第百七号ノ公布ヲ以テ明治六年第
 二百七十二号ノ地租條例ヲ全廢シ更ニ條例ヲ制
 定セラシ其第一條ニ於テ地租ハ地價ノ百分ノ二個半ヲ
 以テ之年ノ定率ト改定セラシタリ嗚呼政府ノ變
 約モ亦太甚トト謂ハサルヘカラス抑々我人民ノ土地、

上ニ僅カナケ年一ヲ出テサシニ二千五百万圓餘ノ巨
額ノ増税ヲ課セリ而シテ重モ正租ニ於テ緩メラルハ
ナリ然レ政府ノ變動的ニ遇フ國運多進ノ執行政
費日ニ多キヲ要ス或ハ不得已ニ出ルモノマシト雖
モ富強ノ場跡ハ如此ノ多進ナル能ハス然レ是ノ平民
カノ相弊衰耗今日ニ至テ殆ト其極度ニ達セリ
ト謂フ可シ税ヲ減キテ民間衰救ノ実況ヲ視ヨ
頻年納税ノ片務ヲ尽ス能ハスレテ財産公賣必
ズニ遇フモノ各地ニ於テ比々比也ナリ或ハ戸口一
千ニ近キノ大邑ニシテ一ノ小學校サハ維持スルノ力ナリ
地方税ヲ補助ナレトフニ至ルハ一都府ノ市中
常ノ家代々ノ賄札トモ西馬ル千軒ニ下ラヌシテ幾ト
全府ノ戸數一割ニハ達スルハ一村ノ民戸半ヲ
率ケテ北海道ニ出稼スルハ或ハ地稅戸數割稅ノ重
キニ苦シ三穴居スルモノ一縣下ニ百廿ノ多キニ及リ
之ヲ明治ル九ヶ年ノ景狀ニ較セハ果シテ如何シヤ加之近
年素西新主成ノ東漸スル一日二月ニ私ク且深ク
考メニ人民生活ノ度自ラ高スルノ今日ニ及ニテ生計
ヲ立ルノ困難ハ幾層ヲ倍蓰セリト謂フコト抑我政
府ノ輸入中地稅ヲ以テ最モ多メ額ト考シ且其及
ホス所最モ廣シ地稅ノ額ハ常ニ輸入ノ三分二ヲ
占メ農業業者ノ負效ハ殆ト全國人口ノ半ヲ過リ
嗚呼我政府ニシテ茲ニ十年一減稅ノ盛徳ヲ懷ヒ
民力休養ノソレ政ヲ急ハレ何リ速ニ再ヒ地稅ヲ

其ノレテ斯ノ民ノ疾苦ヲ治ムハヤシ是レ
皇帝ノ子愛メノ聖多クニシテ又實ニ治世ノ要務ニ非
ルヤ

第四 土地偏重ノ負担ハ民間衰弊ノ最大原因ナリ
之ヲ救済スル唯減租ノ一策アル事

民間衰弊ノ状況ハ前段ニ於テ其一斑ヲ陳タリ今又進テ其衰
弊ヲ招キタル原因ニテ何ニ在リヤ予ニ察スルニ土地偏重ノ
課税實ニ其最大原因ナラスニハアラス請フ少シク其理由ヲ陳シ
テ邦古来農困ト称スル農ノ誠ニ邦ノ財源ナリ故農ノ富豊ハ日
々困ノ富豊ニミテ農ノ貧困ハ即チ日々困窮ナリ政府モ農
ニ困テ吾人民モ農ニ困テ存ス故ニ農ノ進メハ國家ノ三窮強
ヲ得農ノ退ムハ國家ノ三貧弱ト爲レ是レ以テ古代明王復墾ヲ
施シ賜テ常ニ農民ヲ賑ハスヲ以テ第一ト爲サレ然リテ邦
古来農ノ衰重スル至レリ是レモリト虽レ而モ建國ニテ五百餘地
方開墾遲クタル農ノ進歩緩慢トシテ農田諸洲ニ比スレ

故ク向キモナリ是レ何故必ス其原因ヲクハラス蓋シ推シテ古
 来本邦政府ノ農ニ對スル重ニシテ之ヲ揚クル所以報ケ
 ン里ク之ヲ抑ユル所以ニアラズ欤何トナレハ幾ニト農ヲ以テ推
 後源ト為シ非常ニ重歛ヲ施シテ其極セ公三氏ノ劇甚
 ニキ至ハラテナリ如此ニシテ豈ニ能ク地方ノ開榮ヲ望
 イ可ラシキ農事ヲ進ホヤル亦宜シカ哉

夫レ國各其宜ニシキニ依テ重スル所ヲ異ニス米國ノ農ヲ重スル
 英國ノユラ貴ハ各其宜ニシキヲ異ニスラ以テナリ本邦ハ元来
 農困ナリ之ヲ受重ロカルハ方ナル固ヨリナリ是レ古来政府
 カ之ヲ受重ロカル其名ノミニシテ其実全ク相反ニ培養保護
 道ニ與スレテ却テ收歛困渴法ニ依テ身之レ豈ニ富田強ヲ謀
 ル得策ナラシキ國家財源ニ向テ重稅ヲ課スル財源必ス困
 渴渴ス明治政府風ニ茲ニ見ルル進ニテ地租改訂事ニ當
 リ銳意減租ノ法ヲ講セラルモノ、如トト重還尚未々偏重ヲ免レス
 請テ尤ニ或人ノ調査ニ依テ之ヲ証セシ

第四表

内困稅	五九、一〇六、二六一、〇〇五
地方稅	一六、一〇六、二二四、七三六
捐議費	一四、〇〇〇、二一八、七九
合計	八九、二二七、〇三九、九一〇
地租	四三、二七四、〇三二、八九六
地租割	八七、七二六、二七、七八六
戸數割	一、〇三二、一九六、七五三
捐議費	四、六六六、七三九、三九

内困稅 （送皆困稅中海
 關稅ヲ除キタル者）

合計 （米國民ノ年々
 員租スル物類）

合計（農業者ノ負担額）

五七、七三四、六九、八二六

第五表

農業者

一五、六三六、二二二人

其負担額

五七、七三四、六九、八二六

一人負担額

三、六九二

華工族工商神官僧尼

一八、七〇二、二五〇

其負担額

三、四七六、二一八、〇八二

一人負担額

一、六八三

右ニ表ニ就テ按スハニ我農業者一人ノ公奉スル所ハ平均二年三

四六十九錢強ニシテ其他ノ人民ハ二年平均一四六十八錢強負担

スルニ過キ若シ一家口トシテ算スレハ農ハ一戸ニ三年毎歳十八円

四十六錢ノ公費ヲ負担セサルハカラス而シテ其他ノ人民ハ一戸

毎歳一四四十一錢強ヲ負担スルハ以テ是レトシテ是レハ偏重

偏輕太甚トキモト謂ハサルヘケニマ而シテ右表ハ昔ヨリ數年前

調製表依ハラ以テ方今ニ至リテ更ニ負担ヲ加重スルモノアリ

必セリ矣嗚呼同シク是レ日保政保護ノ下ニ吾ノ人民タリ豈ニ

八厘ヲ荷シ一六輕キヲ相テノ理アテナヤ而シテ其生活有様ヲ

觀ハシテ重キヲ荷シ却テ可憐悲物ノ状アリテ其輕キト云

フモ此カニ優々餘裕アリモノ、如シ豈ニ冠履制例ニマラスヤ

彼身ニ縊縊ヲ纏ヒ肩ニ泥鉤ヲ担テ且ニ皇ヲ戴キテ出テ又ニ月

ヲ踏ミ歸リ、勤勞ヲ執ル家ニ慄スニ年々十有八円余ノ重

税ヲ以テシ尚ホ責ムルニ同原ノ同苦ヲ以テセシト是レ豈ニ

難ヲ強テモニアラスヤ嗚呼我農夫實ニ能ク勤勞シ頗ル

稼穡、銀難ヲ當ルモノト謂フ可シ爾ク本邦農夫ノ多キ

苗三倍シ英國ニ五倍スト然レ其ノ耕地極少ク米ニテハ三層
リ英ハ六分ニ止ルモ何レヤ智カノ懸隔大差アリ致ス所多
カレト雖モ抑モ亦貧富大差不ラスカ一原因タラスハ
アラサリ財ニ餘族アリテ智識ヲ未ククテ其ノ用ニ
シテ農事改良ヲ謀ルヘクテ富源ヲ開カスヘシ之ヲ以
コスタ粗糲ヲ減輕スニ在リ減輕事ヲ以テ直生農家ヲ以
然族アラレナク直生民間ノ衰敝ヲ醫治スヘクテ大國家
財源ヲ開カスヘシ其ノ是ニ豈ニ惟一富國ノ長策ニ非ラズヤ
第五大ニ政費ノ節減ニ其ノ道ヲ開クハ軍事
上等某カ証論ニ依リ特ニ政府必ク其ノ道ヲ急務
アルヲ培ラレタルナラン然レモ其ノ道ヲ或ハ權ニ政府ハ力ヲ及
七段ニ達政務自月ニ其ノ道ヲ極後ニ政費ノ增加亦之伴ナリ
得ス故ニ地租ヲ輕減シテ以テ民力ヲ休養食ニ財源ヲ開カスルノ
必要タルヲ知ルモ今ヤ政費ノ節減スヘキモノナリ為テ其ノ道ヲ
キテ如何セント云フヲ以テ之ヲ拒コシテ其ノ道ヲ仍テ其ノ道ヲ
減スヘキ項目ヲ挙ケテ以テ之ヲ理スルノ方策ヲ獻セントス

- 一、大ニ現今陸軍常備兵ノ制ヲ改革シテ護國御兵ノ制ヲ立テ可シ
 - 二、農商務、通信ノ二者ヲ廢シテ之ヲ内務省中ニ併ス可シ
 - 三、宮内省ヲ廢シテ内大臣ヲシテ帝室ノ事務ヲ總裁セシムヘシ
 - 四、大ニ官吏ヲ淘汰シ願ル才能ノ士ヲ精選シテ之ヲ任用スヘシ
 - 五、不急ノ工不ヲ興サス政費ノ濫用ヲ慎ム可シ
- 謹テ按スルニ本邦ノ如キ四面海ヲ以テ環ラスリ和國ニ在テ陸軍常備兵ノ
兵果シ何ノ用ナル是レ軍ニ内亂ニ備フルカ為ナリヘシ内亂ニ備フルカ
警察ノ權ヲ張ル亦以テ足レリトス其ノ道ヲ現今ノ警察制度ヲ視ル頗

ル慎密周到ナルモノアリ甘ク之ヲ利用スルヤハ亦以テ内訌陰謀ヲ未
發ニ防クニモランカ何ソ也ニ多費ヲ力ク奉ケテ陸兵ノ常備ヲ要ニシヤ
唯須ラク國民奉テ兵ノ古制ニ則リ佛國ノ護郷兵此米令衆國ノ
民兵ノ制度ニ倣フテ護國郷兵ヲ編成ス可キ耳然ルモ則チ大軍
費ヲ省キテ並セテ以テ社下ノ力ヲ勞セサルヘシ

農商務省及逓信省ノ事務ノ如キハ農商ハ宜シク之ヲ内務省中逓
信ハ宜シク之ヲ大藏省中ニ移シ二三ノ局ヲ置キテ之ヲ理セシムルヲ以テ
又各省ノ如キハ元來帝室務ヲ管掌スルニ過キサルヲ以テ之ヲ内大臣ノ
時掌ス所トシ僅カニ財務式部等ノ内官ヲ置キ其任ニ當ラシムルヲ以テ
足リトス凡ソ中央政府前可成統理ノ範圍ヲ廣クシテ要シ地方政務ハ
可成分治ノ區域ヲ狹クシテ要ス何トシハ地方政務ハ多ク人民ノ自
治スル所ニシテ之ヲ區域ヲ狹クシテ之ヲ治スルニ過キハ其間早便ナラハ
リ又之中央政府ノ奉テ官人ノ司ル所ニシテ即チ一々皆チ干渉手
段ニ外ラス故ニ其干渉スルニ範圍狹隘ナルハ却チ多費ヲ要シ
後ヲ被干渉者ノ負担ニ重キヲ加フルニ至ルハ理弊ノ然ラシムル也然レ
ハナリ左ノ或ル中央ノ政務ヲ理セシカ爲メ別ニ一省ヲ設クルト之ヲ
他省中ニ一局ニ止ムルトノ間經費上ニ於テ大差ヲ生スルノ理亦自明
カナルヘシ況ンヤ農商務及逓信ノ事務ノ如キハ自然ニ之ヲ内務
及ヒ大藏省ニ於テ処理スヘキノ惟傾ヲ具スルニ於テヤ左ノ事務
ノ惟傾ニニ於テモ經費ノ便宜上ニ於テモ之ヲ内務大藏一
局ニ移トサスト最モ策ヲ得ルモノト信ス殊ニ宮内省事務ノ如キ
之カ惣轄ヲ内大臣ノ特トシ以下三十華族ノ榮職トナシ之ニ
當ラシムルハ之カ費用ヲ省クノ便アルノミナラス亦却テ帝
室ノ尊嚴ヲ瀆サレ利アリト信ス

室ノ尊嚴ヲ瀆サレ利アリト信ス

本邦官吏ノ多数ナル俸給過多ナル之ヲ人民生計ニ比シ之ヲ借外
國吏員ノ割合ニ較スルニ喫飯馬ニ堪ヘサルモアリ其等之ヲ聴テ或確
正統計ニ拠ルトハ本邦官吏ノ多数ナル優力ニ欧米諸國ニ過キリ
ト今英佛二國ノ例ヲ引テ之ヲ証セシ彼ノ二國ニ在テハ人口一十人ニ付
官吏三名餘ニ過キサルニ本邦ノ官吏ノ員數ハ人口一十人ニ付八人餘ノ
割合ナリト又其歳入トノ比例ハ英佛二國ニ在テハ歳入一千万ニ付二
人弱ナルモ本邦ニ於テハ全一千万ニ付實ニ二十七人餘ニ當ルト豈ニ其
差モ亦過甚ニテラスヤ是レ政務繁簡ノ致ス所カ抑モ才能ヲ精
撰セサルカ為ノ一我政府ハ人ヲ舉クルニオチ以テ不純ヲ緣故情
實ヲ以テス故ニ人ノ為ニ職ヲ授ケ職ノ為ニ官ヲ授クルニ至テ是
レ何レノ官省廳署モ冗員充積シ老モ官曹吏終日欠
伸中ハテ事務トヤスアリ宜シク大ニ

陶匠ヲ行ヒ人材登用ノ法ヲ適施シテ專ラ精樸才幹ノ士ヲ舉
ぬレシ然レモハ官吏ノ數ヲ減スル丁其半数差クハ三分一ニ至
ルモ決シテ事効カシ滞ヲ去ス力如キ憂ナキヤ必セリ又其
俸給ノ如キモ本普通人民ノ生計ニ比スレハ裁シト子
均三倍ノ上ニ達スト
(官吏平均一人ニ付一丁ニ年俸給三千四百兩奉養費兩上ニテ
年所得格同三千兩)
是レ亦大ニ改正ヲ要ス即ケ官吏ハ國民各業ノ職分ナルカ故ニ
普通人民ノ生計ニ比シテ幾分ノ優厚ニ定ムルモ可ナリ然レモ今我
國ノ官制ハ其期望ニ比シテ官途ヲ期望スルモ其業ヲ得ルカ
為ノシテ尚ホ可ナリ本邦人ノ期望ハ金リ之ニ及ビシ惟生計ノ
度ノ高キヲ得シナカレバナリ勤勞少ク報酬多キカ力ナリ夫レ
既ニ本邦ノ官途ハ栄譽ノ地ニアラス故ニ官吏タルモ志操ナリ
才少ク智果ノ只目前ノ処勢ヲ弁スルニ汲々トシテ智ヲ人民ノ

便否如何の顧ルに暇アラスリ、己ノ位地ヲ失ハガレシコトヲ是レ勢
ノ當リ國家ノ得喪如何ヲ慮ル能ハサルナリ嗚呼古人之ヲ憂
蠲之聲ヲ古人良ニ我ヲ欺カサルナリ宜シク今ノ時ニ及レシハ滋ガテ更
革ノ官途ヲ以テ老嚮言ノ地トシ情結ヲシ信任ヲ存テ以テ
大ニ官吏江智ノ徳美ヲ養成スルニ如キハスル成ハ一ニ以テ冗費
ヲ法シテ良吏ヲ得テ一ニ以テ其教ヲ減シテ經費ヲ省ク可
不急ノ土木ヲ起シ官途逸楽ノ為ノニ改費ヲ濫用シテ國庫
常ニ空乏ヲ若ク困用遂ニ絶望セズ苛税皇餉ヲ民ニ施セテ尚
是ラズ皆ニ外債ヲ募集使ホシ裁減ヲ増発シテ物經濟甚憂ヲ民
亂シ國家ノ存亡ヲ危殆ナラシムルニ至ル是ニ審人專制ニテ適當ナル
監察者ナキ政府ノ常態ニシテ其例東亞ニ乏シカラズ我州治政
ニ付ハ上ニ

聖明ノ君主ヲ戴キ聖明ノ良弁正士才智謀勇ノ如ク是ホリ日生ノ
如ク列セテ然リ而シテ唯下ニ良民アルモ之カ中ノ有クニシテ官中ニ
上下ノ情意ヲ通達シ道當ニ政府ノ举措ヲ監視察スル所ノ
監察者ニ付監察者監察者ナキカ為メ下ニ人民ノ真情ハ時ニ上達セズ
上明主ノ聖意却テ貫ニ通ルナリ賢良間ニ出テ乱リ方ニ或
ハ私ヲ行フ於是乎不急ノ土木暮リニ喫リ日夜官途逸楽ニ是
レ膠リ洋々タル胡出ノ音彼レ以テ大平知ホク想テ為スモ不民之ヲ
耳ニシテ以テ之困滯中ノ感ヲ起ス山積々タル大廈隳々タル
高樓所在ニ屹立シテ凡俗ノ眼ヲ眩惑スル誰カ知ラシテ是
レ貧民流汗ノ餘滴ナラントハ有司ノ因食美酒ニ飽ク不
民ノ茶飯湯酒ニモ廢ク能ハス女節ノ禮日ニ田間橋上舞
舞ヲ廢テ嚴禁スルニ豈因ラシヤ尚且貴顯ノ私邸別荘ニハ

却テ舞踏假裝ノ催アリ^支進ナキノ所得稅ヲ苛課シテ尚
不稱シテ名譽稅ナリト云ヒ或ハ法律外ノ費用亦在ラズ
以テ蒙ララ^支廢ラレ^支困庫ノ入費總ニ一千百圓ヲ残スニ至リ折
角ニ燒棄シタリシ紙幣ヲ再タヒ灰中ニ喚起シテ兌換銀券
ヲ増發セントシ或ハ大ニ外債ヲ募集セラシメ事遂ニ淺シ
天下ノ視聽ヲ奪フニ至リ改費ノ逆用如斯矣且^支公團用
信は其セズ財源早ク既ニ涸渴セルヤ於^支是ニ^支某等ハ切^支改行ニ
望ムコト以上ノ^支策ヲ実行シ連ニ陸軍ノ制ヲ革ノテ前^支之^支後
田ノ^支兵ヲ^支備成シ農商ノ^支幣ハ之ヲ内務省ニ在シ^支官内ノ事ハ
之ヲ内務省ニ特任シ大ニ官費ノ^支削減^支の^支法ヲ行ヒ^支頗^支ル^支改費ノ
^支濫用ヲ^支慎ミ^支一^支ヲ以テス^支以テ是^支斷^支行セ^支ハ^支某等ハ固ク信ス
^支國庫ノ^支歲出^支年々^支變ハ^支二千五百圓以上ヲ^支減^支カス^支際ハ^支レ^支ト
改費ハ何ヲ^支疾速ニ^支方策ヲ行フ^支以テ^支減^支租ノ^支要路ヲ^支開^支カセ^支ル
果シテ^支政府^支某等^支健^支ル^支所ノ^支方策ヲ^支容^支シ^支地稅^支凡^支ソ^支二千五百圓
ヲ^支減^支却ス^支ル^支ニ^支意^支ア^支ラ^支ス^支其^支後^支ノ^支經濟^支調理^支ノ^支法案^支ハ^支清^支ノ^支更^支ニ
^支次^支項^支ニ^支於^支テ^支之^支ヲ^支述^支ベ^支ン

第六 人民ノ參政ノ權ヲ与ヘテ經濟ノ宜シキヲ
參議セシムル事

自ラ^支我^支財^支ヲ^支理^支ス^支ル^支ヨリ^支賢^支ナル^支ハ^支ナ^支ク^支自^支ラ^支我^支會^支計^支ヲ^支監^支督^支ス^支ル
ヨリ^支國^支密^支ナル^支ハ^支レ^支困^支乏^支ハ^支自^支ラ^支我^支財^支ヲ^支理^支シ^支自^支ラ^支代^支議^支人^支ヲ^支以
テ^支我^支會^支計^支ノ^支監^支督^支ヲ^支為^支サ^支レ^支モ^支リ^支タ^支リ^支是^支困^支乏^支ハ^支立^支憲^支改
修^支ノ^支大^支要^支機^支タル^支一^支端^支ナ^支リ^支今^支ヤ^支我^支日^支本^支帝^支國^支ノ^支經濟^支ハ^支非
常^支ノ^支亂^支セ^支リ^支甘^支ク^支之^支ヲ^支理^支ス^支ル^支日^支本^支帝^支國^支人^支民^支ノ^支外^支難^支ナ^支ラ^支ナ
ン^支ヤ^支今^支ヤ^支我^支政府^支ノ^支會^支計^支ハ^支非^支常^支ニ^支錯^支亂^支セ^支リ^支巧^支ク^支之^支ヲ^支監^支督

スルモノ我々人民ノ外何人カアル是レ政理上自ラ当レ然レ可
ヤノ道理ナリ然レモ 某等 ハ二十三年ノ國會開設ノ

聖旨ヲ奉戴スルカ故ニ敢テ直クニ政府ニ向テ國會ノ完
成ヲ期望スルモノト云フ唯今日本ノ實ニ我リ本帝國ノ注目

常ニ困難ノ場存タルヲ知ラハ政府ニハ深ク遺憾ヲ感
他ノ國ニシテ且シテ非常ノ災患ヲ行ヒテ人民ニテ是レ改

權ノ一部ヲ割テシテ代議士ヲ召集シテ大ニ帝國ノ經
済ノ宜シクテ済セシム可シ設令ニ付テハ粗糲ヲ減却シ去

ルモ國家理財ノ方法莫ク且シテ得ルヤヤセリト云フ故ニ云ハ
スヤ茲ニ瓜分ヲ生セズ強國自ラ富強國ノ政府アリ

貧弱國ノ政府又自ラ貧弱テラサレハカラス富強國ノ政府ナレ
テ貧弱ナラシムルコト則チ易ク善シ貧弱國ニ富強ノ政府

ヲ生セトスルヤ則チ難シト云フ東亞ノ味ノ強ク遂ケントシテ
身ヲ強ク事ヲ敗リ然レ國衰テ亡滅スルモノ極テ多ク是レ

國ヲ其知テテ怪レ是レモノ然ルヲ我々ハ賢明ナリ有司ハ
何故ニ失等財賦ノ業ヲ再演セトスルカ某等 其意ニ在

レテ知レ若シ夫レ日本帝國ハ今ヤ西ニ貧弱ヲ極メ何レ故
テレ猶リ政府ノ富強ヲ試フハケシヤ是レ強テ一小部富強ニ

大瓜ヲ生セトセハ終ニ其苦蔓根ヲ枯レテ止コノハ是レ即チ
亡國ノ由ナリ抑富強ノ政府皆人ノ好ム所ナリ然レ此レ誰カ

亡國ノ由ナリテテ款セシヤ寧ロ口斷日ヲク全皇弱ニ安シテ任
且レ富強ノ善長ニ富強ニ家業ハ民力強大自ラ得テテ始
ナテ富強ノ政府ヲ作出セコトヲ期望セサレテ得ス夫レハ

ハ今ノ日本國ニ相當ナル政府ヲ立テ日本人民ニ相當ナル政

治ヲ施シタランニハ経済調理、法意ニ雅得ノ理アリシヤ是レ
其等^カ道々ニ咽^ナ庫^ナノ歳入ニ千五百万ヲ減少スルモ豈特ハ民
ノ代議士ヲ召^シ法^ホシテ之ニ経済調理ノ方法ヲ議セシメテ
ランニハ必ス其宜ヲ得ルヤ必セリト斷言セルニ以テリ於
是ノ事之ヲ政府ニ切望ス嗚呼本邦洛世激時ノ其策
此ニ外ナラザルヤ

第二條 條約改正^會議中止後處分ノ事

某等謹シテ按スルニ今回我政府カ外文其宜ヲ失シ殆ント
帝國ノ運命ヲ危クセントシタルモノ條約改正會議ニ外ナ
ラサルナリ然レモ該會議ハ政府ハ其非ヲ悟リ賴ヒニ一時
ノ中止ヲ得タリ唯夫一時ノ中止ナリ永久ノ取消全瘼ニ非ル
ナリ於是^子中止后ノ處分如何ハ實ニ帝國ノ安危存
亡ニ関スル至重大ノ問題トナリタリ某等至愚國
外ノ事態ニ迂濶ナリト虽モ苟クモ國家ノ安危ニ関スル
リ國民タルモノ豈ニ黙シテ止ムヘクニヤ請フザシク某
等ノ管見ト期望トシテ聞陳セシ

第一會議中止の果シテ決議取消ト在様ノ効

カアル子

曰曩キニ我政府ノ委員カ締^盟各國ノ公使ト共ニ決議セル
改正條約案ハ實ニ不当不正ニシテ我々帝國ノ体面ヲ損ス
ルモノナリ我帝國人民之推理ト利益トヲ無視スルモノナリ我
帝國ノ独立ヲ失墜セシムルモノナリ之ヲ取消サスニハ民一日モ
安居スル態ハス國一日モ安養ナル能ハス於是乎去年十月
以來陸續トシテ上各達白セルアリ皆ナリテ之カ元消テ政府
ニ要求セサルハナシ賢良方正其人ニ當ル我政府ハ必ラス大ニ
顧省スル所ナリ民間ノ輟策ニシテ採ルハキハ之ヲ模用スルカ

ラサルハ之ヲ捨テ次テ頼ル處スル所アルヘキナリ然レモイフル
モノ或ハ曰ク當局者其人ハ或ハ信ス會議中止ハ一時ノモノ
ニアラス而カモ無期ナリ無期ナルカ故ニ曩キノ會議ノ結果ハ
自ラ消滅ニ歸シタルモノナリ故ニ該會議決議案ハ不当不
利ナルモノ中止セラレタル以上ハ復々憂フルニ足ルモノナシト鳴
呼是レ何タル言ソヤ某等惟フ是レ事理ヲ解セズ時勢ヲ知
ラサルモノ、暴言ニシテ所謂齊東野人ノ語ノミト何ヲ以テ
之ヲ云フ曰ク會議中止ハ決議ノ取消ト同様ノ効カナキヲ以
テ之ヲ云フナリ好シ國際上ニ於テ從來去ル慣例ナリトス
ルモ方今宇内ノ形勢ヨリ觀察ヲ下スルハ決シテ旧慣格例ノ

頼む可うけれモノアルヲ以テ之ヲ以テ云フナリ我一貧弱ノ國勢ノ
到底十餘強大知國ニ對抗シテ以テ直曲ヲ争決スル能ハサ
ルヲ以テ之ヲ云フナリ然レモ若シ果シテ會議ノ中止ニシテ
國際上決議ノ取消ト全様ノ効カフヲシムルノ先例アリトセシ
ヲ及令方今ノ形勢頼むヘカラサルモノアリ我國邦國力不
可ナルモノアリト云フ亦以テ聊カ名義ノ極ルヘキモノアリ
彼レ若シ之ヲ破ラズ我正ヲ踏シテ休ルノ名アリ故ニ是
レ大ニ討究ヲ要スル一莫ナリト云フ然リト云フ某等如何ニ
討究論究スルモ未タ曾テ如此ノ例ヲ証明スル能ハスナキ
万思スルモ未タ曾テ其然ル所以ノ理由ヲ發見スル能ハス是

レ我ハ某等薄識淺慮ノ致ス所ナルヘシト云フ然レ亦一般
普通ノ法理ニ於テ許サル所タルヲ如何セシ夫レ中止
ナリ一時其事柄ノ定否或ハ効カズ生滅等ヲ中斷停止スル
ノ義ナリ決シテ直チニ以テ其事柄ヲ定否或ハ以テ其生
滅スルノ効カキテ法トス是レ法律上停止条件ト示ス条件
トノ別アル所以ニ非エヤ且又其ノ無期ナルカ故ニ取消ト同様ノ
効カアリト云フカ如キハ且又其信スル能ハサル所ナリ何ソ彼
レ強悍鷲鳥ノ如ク貪婪豺狼ノ如キ政州各國威カハ何時ニ
テモ其己レニ利ナルキハ再問題ヲ提起シ来リテ其翼ヲ張リ
テ以テ其欲ニ逞セントスルニ躊躇セズ何事ニテモ其己レニ

便ナルハ百方口実ヲ構ヘテ其瓜分ヲ鳴ラシテ以テ其威ヲ耀
カサントスルニ孤疑セザレハナリ然レハ則チ曩キノ中止ニシテ
果シテ無期ナリトスルモ豈ニ安シテ之ヲ置ク可キヤ或ニ曰ク
其説信スルニヨラヌ野人ノ妄語タルヘキノミト然レハ則チ
之ヲ取消シテ以テ彼レ諸強國ヲシテ再ヒ口ヲ藉カケラレ
ハレト是レ豈ニ今日ノ最大急ニ非ズヤ

第二 外交事宜ノ原因如何

某等既ニ會議ノ中止ハ以テ決議ヲ取消スノ効カチキトシテ
辨明セリ之ヲ取消シ全ニ擦ニシルト最大急勢タルヲ断
言セリ然レハ假リニ之ヲ中止シタルハ之ヲ取消シタルト同様

ノ効アルモノトノ説ヲ容レ之カ善後ノ策如何ヲ考究スルト
是亦今日ニ於テ最モ急務ニ付スヘカニサルノ問題ナリト
信ス之カ善後ノ策ヲ講セシトモ先ツ須ラク既往ニ於テ外
交事宜ノ原因如何ヲ究明セサル可キラス請フ試ニ之ヲ按セシ
從來本邦政府カ外交締約上ニ於テ其宜ヲ失セル原因
固ヨリ一ニシテ是ラサル可シト虽モ今ヲマ其取モ大ナルモノヲ
討スルニ蓋シ外ハ各國共同ノ訂約ヲ許シ内ハ會議ヲ國
民ニ秘スルヨリ大ナルハナシ之ヲ國民ニ秘隠シ之ヲ双方委員
ノ間ニシテ密議スルカ故ニ其間ニ於テ種々ノ弊害情實
百端發生シ来ルモ固是輿論ノ以テ之ヲ拒止排餘スルトク

ニハ勢之ニ制セラレサルヲ得ス是我邦ピット徴候其人ヲ
欠ケノ致ス所ナルヘシト虽馬ソ亦會議ノ方法其当ヲ得
サルノ故ニアラサルヲ知ラニヤ今日民間堂々ノ論議アルヲ
以テ証ス可キレ之ヲ各國共同ニ許約スルヲ許容ス故ニ苟
リモ彼レニ利アルヤ設令我ニ百害アルモ彼等汝強國
ニ當ルニ足ラサルニ如何セシ我國勢ヲ察スルニ僅々ニ三ノ邦
困ラ除ケノ外ハ兩國對峙場合ニ於テ我々勝算ヲ必証
セラレヘキモノ甚々稀ナリノ例ニヤ彼等強大ノ威カヲ合
同シテ以テ我カ一小貧弱國ニ向テ我山豈ニ何ノ頼ム所アリ
テ寸推ヲ伸ヘ毫利ヲ爭ハシヤ且東洋通商ニ對ス

ル治外法權ヲ以テ我々無礼ヲ加フルモ我レ之ヲ如何ト
モスル能ハス立法ノ大權ヲ彼レニ侵奪セラレントシテ之
ヲ拒ム能ハス是レ幕府遺留ノ病ニシテ其罪之ヲ汝外國
ノ兇暴ニ歸セサルヲ得スト虽斥抑モ亦我明治政ニ付先ツ
カ一着ニ此ノ病ヲ除カン一ニ努力セサリシハ是レ豈
ニ今田此ノ大失敗ヲ招キタル一大原因ニ非ル乎

第三 外交善後ノ方策如何

我政府力合面外交其宜ヲ失セル最大原因ハ實ニ共同訂
約ト秘密議定トニ在リ某等今ニ善後ノ方策如何ヲ
考索スルニ亦實ニ失ニ病ヲ除去スルヨリ外ナキヲ信ス

ルナリ即チ諸国共同ニ条ヲ訂結スルヲ罷ノ各口
國各自ニ締約スル之也從來ノ如ク會議ノ議定ヲ
秘密ニモス之ヲ國是輿論ニ質ス是レナリ請フ先ツ
各別締約ノ事ヲ述ヘリ

夫レ國各其其國特種ノ利害アリ歐洲諸國大抵其境ヲ
接シ其國ヲ列スト雖ル亦各其利害得幾ヲ殊ニス知シ又其東
洋諸國ニ對スル修好上及通商貿易上ノ關係ニ於テ又例ハ
ハ我國ト英國トノ間ニ利便ナル條約モ日身曼ハ或ハ却テ之
ヲ不便トスルアラシ佛國ト我トノ間ニ在ラハ不便トスルノ條
約モ伊太利ハ或ハ以テ不便トスルアラシ暹羅西葡亦タ比自然
ラカルハレシ況ニ又彼ノ米國ノ如キハ歐洲諸國ト或ハ在リ利害
得喪ヲ相及スルモノアラシ惟フニ吾國ヲ別異シテ各自ニ其
条約ヲ改立セハ彼ノ特種ハ我特種ノ利害以テ相觸フヲ
得テ我國ニ於テ大ナル弊害ヲ受ケルコトナカルベシ然レモ各
國相合同連結シテ改正シテ從事セハ各國特種ノ利害ハ
相集テ一團ヲ為シ我國ト單獨以テ其種故ホク受ケル

ヲ得ス而メ我取ルル所甲ニ害ナキモ乙ニ不利アリテ全然其
望ヲ遂レルヲ得ス其極又甲ニ譲リ乙ニ譲リ又丙ニ譲リ我
ニ失フ所多ク乙ニ得ル所少カラシ如此ニシテ嘗テ高クナル改
正ヲ望ムヘケン又嗚呼其日訂約ノ際亦大ナル哉我条約改正
ノ局ニ當ル者宜シク先ツ英國政府ニ要求スルニ其条約ヲ
セシ条ノ削除ヲ以テシ并ニ其条ヲ九条佛國ニ其条ヲ九
条他國政府ニ其条ヲ九条等其条ヲ九条佛國政府ニ其条ヲ九
条等ニ其條ノ削除ヲ請求シ以テ後未我國トノ間ニ成立
セル殊異均面詰、約ヲ取消サシテ一ヲ第ハヘシ是レ彼レニ藉
スニ其日訂約ノ口實ヲ以テスルノ一大事概ニシテ各別訂約
ノ事ニ從フ又少ラス第一着ニ排除シ去ラハルヘカラスルノ障害
アリ然ラズニテ排除シ去ラハルヘカラスルノ第一着ニ排除シ去
ラ避ケル能ハザルヲ故ニ將來各別ノ条約ノ改正ヲ行ハントモ殊異均面
ノ約ヲ取除クヲ以テ第一着キトセザルヘカラスルニ首トシテ英國伊太利
等ノ政府ニ向テ告白ノ訂約ヲ要求シラヒ其承諾ヲ得テ約先ツ成
ルノ暇ニ至ラハ以テ他ノ強國ニ向テ均シク要求ヲナスモ其レゾ之
ヲ拒リノ辭柄アリシヤ如斯セハ訂約ノ事成リ易クシテ亦以テ他日ノ大
患ヲ免ヤルニ原幾ニ平且ツ夫レ以テ事業ニ坐シ上ニ空論ニマシテ聞クヤ如
クニハ我政府ニ義キシ改正條議ヲ聞クノ前ニ當テ較其日訂約ノ
難キヲ悟リタレモ、如ク先ツ事案ヲ米國政府ニ送り之カト意ヲ求メシ
日國公使ハ大ニ之ヲ贊成シ而ニ政府間ニ於テ將サシ訂約成ラシ
トスル際ニ英國政府ノ身ニスル如クナリ大ニ憤怒シ我ニ其目レシ
日訂約ニ義ニ背リテ以テス我ニ之ヲ棄テ下ル、而テ其ナリ又且飽ニテ
初志ヲ貫徹スルノ氣カモナリ大ニ固執根柢シテ復々米國公使

ニ謀ルノ般ナリ直キ以テ米ノ本國政府ニ電者ニテ最キヲ提模ヲ取消
シカリ斯リテ米國政府ヨリハ公使ニ之ヲ通セシム公使ハ大ニ歎キ百
方其間ニ周旋シシモ事遂ニ成ラズシテ其以居休ヲ聞クニ多リタリ
ト云フ是ニ誠ニ惜ムハキノ至リナリ然レモ我政府ヤ之ヲ為スルノ手段ノ
粗トト決行ノ斷キハ百世ノ笑柄ト遺スモト謂ハレルヘカスス以テ大息
ニ堪ヘシク嗚呼其同前約ノ難キホクテ以テ概知スハキナリ之ヲ他邦
ニ例セバ身格近キ史上大ニ變ハハキモノナリ故國ハ任時一夫強國
ナリシモ抑ハラス近代ニ至リ存リニ國威ヲ損シ半同旗章ニ陸軍迷
霧ノ裡ニ曝曬ノ憂ヲ受ケルニ至リタル所以ノモノ職トシテ英佛、澳、魯
等ノ其同運結ニテ其外交ニ干渉トシテ容レタル、過ニ由ラスハナラザルナリ
嗚呼是レ實ニ我邦ノ前途ニ憂タリ旭日ノ光ヲシテ半日月ノ影ト均
シク照臨スラレハルト各トハ唯大歐洲諸強國各同運結ノ干渉ヲ受
スト否トニ在リ慎ミ可キハ外交ナリ恐レハハ合同運結ノ干渉ナルカテ

第四 國ヲ奉々々改正幸約事項ヲ諮問ス

外交ノ必察ヲ要スルハ其機敏活潑ナラザルヲ懼ルルハナリ其
對前政府ノ微知スル所タルヲ慮ヒナリ故ニ彼ノ知戰ノ談判未タ
決ヒガレシツテ又、其所成、知ルノ意アルモ表面ニ或ハ專ラ戰ヲ
欲スルモ、如リ裝ハサルヘカラザルナリ、然レモ或ハ既ニ我ニ於テ戰ノ
覚悟アルモ尚ホ能ク之ヲ知親ヲ欲スルモノ、如クテ干和ヲ示サザルバ
カラザルナリ、アルハ、在レハ幸約改正日ノ事ト云ヒ此之ヲ実行
スルノ手段ニ至ラハ或ハ機敏活潑ヲ要スルナラシム又或ハ彼ノ對
前各國ニ濶濶ヲ防アザルヘカラザルナリ、アラスシ然レモ、幸約改正
並ニ事壇ニ至ラハ、曾テ、之ヲ秘密ニスルノ面ヤナキナリ、ミナ
スニ之ヲ秘密以議定スルノ難キ、誠ニ畏ルハ、モナリ、シテ

如何ニ外交ノ機密ヲ漏洩スルハ一國ノ安危存亡ニ關スル大
問題ヲ謂フシテリ要キキニ之ヲ國民ニ知スヘキヤ或シテ我政府
後ニ大ニ國事ニ在リ知識才能ヲ保フテ以テ改正条約ノ各
項ヲ不問審議セシムル如クシテ國士各人ノ是認可決スル所ヲ採
リ之ヲ以テ条約ノ案ヲトシ各別ニ聯盟國ノ各員ト協議
決定スル所ヲハ必スヤ満足ナル結果ヲ得ルハキヲ確信シ
ラシモ疑ハルナリ何ヲ以テ之ヲ平國是輿論ニ堅甲利
兵ヲ伸フルヲ以テ云フナリ少數當局者ノ私案ニテラガレテ
以テ云フナリ

情實故弊習ノ行ハレ難キヲ以テ云フナリ苟クモ之ヲ破ル如キ
アラスハ全國人民ノ激怒ヲ懷ルニ至ラントスルノ慮アルヲ以テ
之ヲ云フナリ國士トハ如何ナリ人々ヲ指ス中在朝在野ノ
老政事家、學者、新聞記者、代言人ノ如キ是レナリ
其ノ民力休養ノ要多ナルヲ思ヒ茲ニ地社減輕ノ方策
ヲ進メ又外交善後ノ処ルノ急務ナルヲ思ヒ茲ニ各別
訂約ノ一策ヲ献スルニ惟フ方今テノ至要至務ニ此ニ
事ニ外ナラサルヘク國家ノ長計大策又實ニ此ニ外ナラサル
ヘシト其ノ國家ヲ思フ至切至中至ナリ故ニ敢テ謂フ
ク信シ政府ニ盡カセシ非スル政府ハ此等ノ急要ノ務
ヲ為サズ又民間ノ献策ヲ嘉納セズ却テ忠君愛
國ノ志士ヲ皇城ノ教里ノ外ニ驅逐シ或ハ此ニ事
ニ托シテ之ヲ獄ニ下セリ高且得々手トシテ以テ一國ノ安
寧ヲ保難スルノ道ヲ得タリト為ス嗚呼是レ何ソ
誤レルノ太甚ニヤ其ノ實ニ内閣諸伯ヲ信スル

ノ厚キニ失セリヲ悔ハサリヲ得ス然リト雖モ猶ホ未ク直クニ
其代謝更迭ヲ促サリ所以ノモノ誠ニ深ク又維新
ノ功勞ヲ男ト或ハ高ホ後改自新スル所アリト
欲スシハナリ是レ政府ノ其意ノ人民ニ對スル徳義
ナリ是レ其意ノ人民カ内閣諸伯ニ對スル徳義ナリ
若シ諸伯ニシテ尚ホ一行ノ徳義ナクハ存セム連ニ其意
ノ切ニ言フ所ヲ聽キ敢テ進ムル所ノ策ヲ施行ス
若シ亦自ラ其徳望ト材カトヲ料リ到底ニ其意ノ
獻ハ策ヲ断行スル能サシハ疾カニ冠ヲ掛ケテ朝ヲ退
ク可シ是レ亦内閣諸伯ノ上ハ

皇帝陛下ニ對スル忠節ニシテ下ノ人民ニ對スル
徳義ナリ其意ノ故テ卑野ノ言論ヲ閣下ニ進ム
閣下幸ニ言辭ノ不遜ヲ咎ムナク唯忠君愛國ノ
微衷ヲ採リ
陛下乙夜ノ覽ニ供セラレシコト切望ニ至リニ堪ハ
ス其意ノ頓々首々謹言

明 宣 宗

